

ちよつとい話

15



瑞浪市

『ちよつといい話』を手にしてくださいました皆さんへ

『ちよつといい話』は、皆さんが日々の生活の中で見たり聞いたり体験した、心が温かくなる出来事を取りまとめた小冊子です。

『ちよつといい話』の募集を始めて15年目となりました。今年度は、1,458人の方からご応募いただきました。これまでに、延べ15,185人の方にご応募いただいております。ページの都合上、すべてのお話を紹介することはできませんでしたが、お話をお寄せいただきました皆様に深く感謝します。

毎日の生活の中で、皆さんが感じた嬉しい気持ちや、感心したり、勇気をもらったりした出来事など、自分の心にしまっておくだけではもったいないような心の温かくなる話のおすそわけとなっています。

この冊子を手にしていただいたあなたにも、毎日の生活の中で、人と人とのつながりを思い返すきっかけになれば幸いです。

もくじ



◆ 一般編	◆ 中学校編	◆ 小学校編
⋮	⋮	⋮
125	53	1

【表紙のイラスト（ちぎり絵）】

明世町在住

小学校編



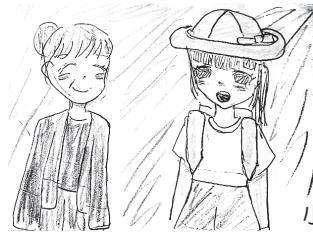
小5

あいさつでニコニコ笑顔	1
家族っていいな	4
友だちっていいな	15
クラブ・習い事	27
先生ありがとう	34
地域の人とのつながり	37
うれしい出来事	41



あいうえおのあいうえお

▽私は、地域の人にあいさつをすることは、ほとんどありません。でもある日、お母さんに「あいさつしてる？」と聞かれ、ドキッとしました。なぜならあいさつをしていなかったからです。地域の人は、あいさつをしてくれるのに、私はあいさつをしていないので、このままでいいのかなと思いました。次の日の朝、私はあいさつをしました。返事は「おはよう。いい天気ね。学校がんばって！」でした。ただあいさつを返してくれるだけではなく「がんばって」と言ってくれました。あいさつひとつで、ただの言葉が相手を元気にしたり、自分の心をあたたくしたりするということを意識し続けて、あいさつをしていきたいと感じました。



小6

小6

▽私が登校する道に、暑くても雨が降っていても、いつも交通安全の人が立ってくださいます。その人は、私たちの分団のことをよく見てくださっています。「今日は、人数少ないね」とかいろいろ話してあいさつをしてくれます。いつも交通安全の方からあいさつをしてくださるので、これからは、分団長として私からあいさつをしていき、交通安全以外の人にも私からあいさつをして、元気にしていきたいです。



小6

小6

▽毎日、学校へ行く日は横断歩道を一つわたります。そこでは毎日、交通安全ボランティアの人たちが立っていて「おはようございます」と言う「おはよう」「いつてらっしゃい」「がんばれよ」などと声をかけてくれます。だから、苦手な勉強もがんばれるし、学校がめんどくさいなと思っても元気が出ます。ボランティアの人がしてくれるあいさつは元気のおまじない。

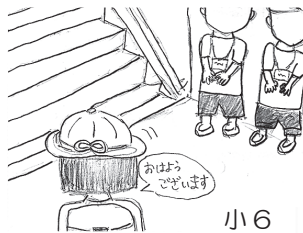
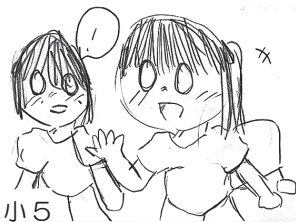
小4

▽私は、出会った人にあいさつをするようにしています。前、自分がおちこんで歩いていると「おかえり」と笑顔で言ってくれた人がいました。私は、その人を見て「私もこんなふうになりたい」と思いました。そのことがあってから、悲しい時もうれしい時も、あいさつをするようにしています。私のあいさつでだれかが笑顔になれますように。あいさつは私にとって「まほう」です。

小6

▽朝、学校に行く時にさんぽをしているおばあちゃん三人と会います。すれちがう時に「おはよう」や「がんばってるね」と言ってくれて、ハイタッチをして学校に行きます。そのおばあちゃんたちは、いつも歩いています。私がおくれている時はふりむいて「おはよう」と言ってくれるのでうれしいです。これからも学校に行く時に「おはよう」と言いたいです。

小5



▽ぼくは、あいさつがすこし苦手です。だけど、思い切って大きな声で地域の人に「おはようございます」と言ってみると、相手もわらってあいさつをしてくれました。それがうれしくて大きな声であいさつができるようになりました。これからも大きな声であいさつを続けたいです。そして次は、先がけてあいさつがいつでもどこでもだれにでも、明るく相手がいい気持ちになるようなあいさつをしたいです。

小4



小4

▽少し前に、おてつだいでごみ出しに行きました。その時すれちがった60代くらいの方に「おはようございます」と言ったら、その方が「おはよう。おてつだいかい？ えらいねえ」と笑顔であいさつをかえしてくれました。私は、うれしかったので「あいさつはまほうの言葉だなあ」と思いました。そしてその一日、心があたたかい日でした。

小5



小5

▽お母さんと自転車でさんぽをしている時、近所のおじさんがいたので大きい声であいさつをしました。私は、初めておじさんに会いました。けれど、おじさんは、私が小さいころを知っていたみたいで、えがおで「大きくなったね」と言ってくれました。私は、身長が低いのがいやなので毎日牛にゆうをのんでいます。だから、おじさんのその言葉がうれしかったです。

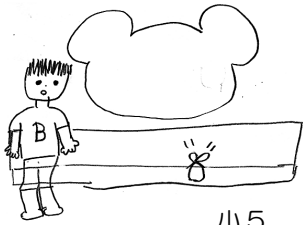
小4

☆家族っていいな

▽僕は、一時期、友だちの輪になじめない時があり、きよりをとった方が良
いのか、その輪の中に入った方が良いのか、なやんでいて、父に相談すると
「はじめからさけるのは良くないと思うよ。その輪の中に入って学ぶことも
あるし、あまり考えすぎるとストレスになるから、一度ためしに入ってみて
みるのも良いんじゃない？もし自分と合わなければ、その時は無理に中に入らずに少しきよりを
取り、遠くから見ている方が良いのではないの？」とアドバイスをくれました。僕は、その言葉を
聞いて気持ちが楽になり、一度試してみようと思いました。何事も最初からにげてはいけな
いのだなあと思いました。

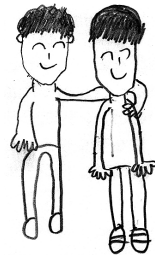
▽この間、デイズニールゾートに行きました。リゾートラインに乗っていると、荷物をわすれてしまった人がいました。私は、どうすればいいか
なと考えたけど、結局何もすることができませんでした。でも、私のお父さ
んはすぐに立って、わすれ物を持って走っておいかけだったので、知らない
人にも親切にできてかっこいいなと思いました。私も、お父さんみたいに
すぐに行動できるような人になりたいです。

小5



小5

小6



小6

▽ぼくは、お父さんが仕事から帰ってくると、今日ががんばったことを話しています。ぼくが話すと「がんばったな」「すごい」と言ってくれるので、もつと話したくなります。今日、もつとこうすればよかったと思うことを言おうと「こうすればよかったんじゃない?」と言ってくれるので、次からどうすればいいかがわかります。ぼくが大人になったら、小さい子にアドバイスを言ったりほめてあげたいです。

小3

▽家の近所に、少し前までお婆さんとおじさんが住んでいましたが、おじさんがなくなっていました。それで、ぼくのお父さんがおじさんが今までやっていた草かりや畑のお世話を週に一回くらい手伝いに行っています。たのまれたわけではないのに手伝えるお父さんがものすごくカッコいいと思いました。おかげでとれたての野菜をいただくことができてとくしています。

小5

▽ぼくは、自転車に乗れませんでした。でも今は乗れます。なぜかと言うと、お父さんとたくさん練習したからです。乗れた時はうれしかったです。お父さんは、一生けんめい教えてくれました。お母さんに自転車に乗れたことを言うとはめてもらえてうれしかったです。自分ができたことでほかの人もうれしくなったのでがんばってよかったなあと思いました。

小3



小3

▽はじめ、おさらあらいをしたとき、おかあさんがほめてくれたのでうれしかったです。また、あらったせんたくものをほしたり、たたんだりしたときも「ありがとう」といってもらい、はれたきぶんになりました。

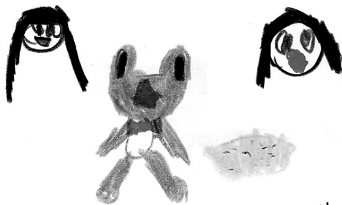
小1

▽ぼくが、おたふくのような症状が出た時、お母さんがすぐ車で病院に連れて行ってくれました。だけど、その病院はすごく混んでいたので、少しでも早くとちがう病院に向かってくれました。けつきよく、おたふくではなかったけれど、いろいろな病院をまわってくれたお母さんに、ほっこりしました。

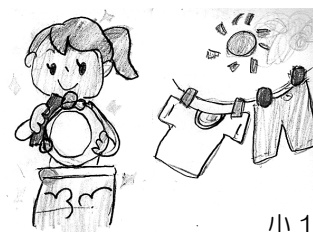
小6

▽わたしは、なつやすみに、かえるのけんきゅうをしました。はじめは、おたまじゃくしから手や足がはえてきてうれしかったです。みずをかえたり、えさをあげたりしてたのしかったけど、まとめをかくのが、めちやくちゃたいへんで、もうやめたいとおもいました。そのとき、おかあさんが、きゅうけいをさせてくれて「もうすこしだからがんばれ」と言いました。おかあさんが、いつしよにいてくれたから、さいごまでがんばれました。できたけんきゅうをみんなに見せました。「がんばったね」って言ってもらえてうれしかったです。

小1



小1



小1

▽私は、お母さんの誕生日の時に、お姉ちゃんといっしょに誕生日サプライズをしました。お母さんが帰ってくるまでに、かざりつけやお手紙、お母さんの好きなおかしを机の上に置きました。お母さんが帰ってきた時、部屋に入って、お姉ちゃんと「お誕生日おめでとう」と言いました。その後、お手紙をわたした時、文章を見て泣いてくれました。お母さんにとって、すてきな一年になってほしいです。

小6

▽ぼくは、4がつからあるいて学校にかようようになりました。ランドセルの中にしゅくだいやすいとうをいれるので、おもくたいへんなときがあります。ぼくのおにいちゃん、3年生です。ぼくがこまっていると、にもつをもってくれたり、さかみちでランドセルを下からもちあげてくれます。ぼくもいつかは、年下の子のおてつだいができると思います。

小1



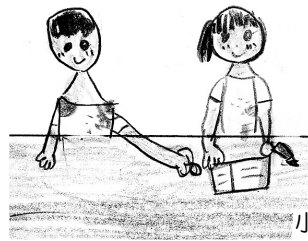
小1

▽兄の高校野球最後の試合となった日、準々決勝、相手は、優勝候補の強豪校でした。初回から点差が開き、だれが観ても不利な展開。そんな中、兄を見るとニコニコ楽しそうにチームメイトに声をかけていました。「ピンチのときこそ、笑っていたほうが良い方向に行く気がするでしょ」と。残念な結果でしたが、すがすがしい顔をして話す兄が最高にかっこよかったです。僕もピンチの時こそ笑って誰かを勇気づけられる、そんな人になりたいです。

小6

▽しゆく題の計算ドリルでわからない問題がありました。お母さんに聞こうとしたけれどいそがしそうです。何分もなやんでいると、後ろからお兄ちゃんの声が聞こえました。やさしい声で「わからないの？」と聞いてくれて、やさしく問題を教えてくれました。わたしは、お兄ちゃんがやさしいということを知りました。こまっっている人がいたら、お兄ちゃんみたいにやさしく声をかけてあげたいです。

小3



小3

▽私は、お兄ちゃんと仲がわるく言いあいが多かったです。お母さんは、一人っ子で大へんなことが多かったそうです。だから、お母さんは、一人っ子にはぜつたいにしなと言っていました。そのことを知ったら、なぜか急に仲よしになりました。仲よくなってよかったです。

小3

▽この前、私が親におこられていると、妹が「おこらないであげて」と言ってくれたのでやさしいなと思いました。ふだんはおもしろい妹だけど、やさしい所もあっていいと思いました。

小3

▽わたしは、いつも三姉妹で夜ねています。なかなかねむれないと、お姉ちゃんが自分で作ったお話をしてくれます。そのお話がおもしろくてよけいにねむれなくなったりするけれど、お姉ちゃんのお話が大好きです。これからも三人でずっとねたいです。

小4

▽私の妹は、いつもがまんぶよい人間です。本当はほしいのに、私によくゆずってくれます。例えば、妹がUFOキャッチャーで取れた物を私がほしいなと思って「ねえ、それほしい」と言うと妹はがまんをしてすぐゆずってくれます。本当は妹もほしいのに。私ならぜったいにあげたくないのに、妹は、なぜがまんしてゆずってくれるのだろうかと不思議でした。かたがありません。やさしいなあー。私も少しずつ努力をして、心のやさしい人間になりたいなと思いました。

小6

▽1年生の時、お姉ちゃんといっしょに学校から帰ってくると、お母さんがおかしを用意してくれていました。おかしは三つあり、私もお姉ちゃんも二つ食べたくてけんかになってしまいました。夜ごはんを食べた後、お姉ちゃんが「さっきはごめんね」とあやまってくれました。私はいっさいあやまる気がなかったけれど、お姉ちゃんがあやまってくれたので、少し気持ちが落ち着きました。それで、私が二つ、お姉ちゃんが一つ食べました。私は「なんかもうしわけないな」と思っていました。私もお姉ちゃんみたいに、やさしい人になりたいです。

小5

▽私は、そろばんをならっています。今年の6月に一級の試験を受けました。試験のためにたくさん練習しました。しかし、結果は不合格で、すぐ落ちこみました。そんな私を家で待っていたところが「次受かるよ。大丈夫!」と言ってくれました。私は、次で受かるために、もつとがんばろうと思いました。

小6

▽僕が一生けん命自学をしていたら姉に「こんなに勉強してるの？すごいじゃん」と言ってもらえました。本当はやりたくないけど、自分のためだとやっていたので、その言葉で本心でがんばろうと思うことができました。ひとつの言葉でこんなに心の思いが変わるのかと、とてもおどろいてしまいました。姉は、今受験勉強をすぐがんばっているので、今度は僕からも声をかけておたがい勉強の心を育みたいと思いました。このままけいぞくできるようにがんばります。小5

▽夏休みにおじさんと海外旅行に行きました。私は、英語がわからなかったのですが、おじさんが現地の人とお店などで話してくれました。とてもたすかりました。他にも有名なところにつれていってもらったり、海外のことなどをたくさん教えてもらいました。とてもうれしかったです、楽しかったです。いろいろ不安だったけど、おじさんがたくさん教えてくれたので安心しました。帰る時の空港でも最後までいっしょにいてくれました。とてもやさしかったです。たくさんお世話になりました。また、お礼を言いたいです。小5

▽わたしが、じてん車のれんしゅうをしていると、いとこのおかあさんとおばあちゃんが、れんしゅうをてつだってくれました。いっしょにれんしゅうをして、できないことをおしえてくれました。そのおかげでじてん車にのれるようになりました。おばあちゃんといとこのおかあさんにかんしゃしたいです。小2

▽いとこのお兄ちゃんが高校生になり、あまり遊べなくなりました。理由は部活動をやっているからです。休みの日も朝から夜まで部活動をやっていて、お家に遊びに行っても会うこともできなくてさびしい気持ちでした。そんな私に、お兄ちゃんからビックニュースが入ってきました。なんとお兄ちゃんが今年の夏の全国大会に出場することになったのです。テレビで見るとそこには一生けん命がんばるお兄ちゃんの姿が映っていました。私もテレビごしに一生けん命応援しました。会えないさびしさもふつとんで逆に勇気をもらいました。私もお兄ちゃんみたいにがんばるぞ。お兄ちゃんがんばれ！お兄ちゃんありがとう。

小5

▽私が熱射病でおなかがいたくて何もできない時、おじいちゃんが体にいいリンゴジュースを持って来てくれました。次の日には、五平餅をくれました。私が「ありがとう」と言うと、おじいちゃんはニコニコしながら「早く元気になれよ」とやさしく言ってくれました。私は、そんなおじいちゃんが好きです。

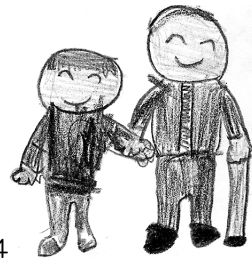
小5

▽私の家には、88才のおじいさんがいます。最近ちよつと物覚えが悪くなりました。私を見ると「大きくなったねえ、何年生？」といつも聞きます。「おじいさん、今日二回目だよ」と言うとおばあさんは「おじいさんは忘れる病気やで何回でも教えてあげてね」と言いました。先日、88才（米寿）のお祝いを家族でしました。おじいさんは喜んで泣いていました。

小5

▽ぼくには、病気で歩く時につえで歩くおじいちゃんがあります。いつもは家の中にいることが多いですが、時々いつしよに出かけることがあります。いつしよに歩く時は、おじいちゃんが転ばないようにつえのない方の手とこしをささえてあげます。ぼくは、いつもたすけてあげたい気持ちになります。今のぼくがいるのは、おじいちゃんとおばあちゃんがついて、お父さんとお母さんがいるからです。だから、おじいちゃんにやさしくしてあげたいです。ぼくがいつもおじいちゃんが転ばないようにささえてあげるので、お母さんに「おじいちゃんのことばよろしくね」とよくたのまれます。「ぼくにまかせて」という気持ちでおじいちゃんを手つだっています。おじいちゃんやお母さんに「いつもありがとう」と言われます。ぼくも「ありがとう」と言われてうれしいです。

小4



小4

▽わたしは、心配しようでいろいろと心配してしまったりきずつきやすいです。おばあちゃんに相談すると、いつも「あんじゃない」や「それはいかんね」とわたしの味方になってくれます。「あんじゃない」は、方言で「だいじょうぶ」「心配ない」というような意味です。心配しているときに聞くと安心します。「あんじゃない」と「それはいかんね」は、わたしにとって元気になれるおまもりの言葉です。

小4

▽私のおばあちゃんは、いつもスーパーやいろいろなお店に行った時、お店の人に明るく話しかけます。だからいつも少しの時間でも楽しそうです。今は、セルフレジや注文ロボットでお店の人と関わることが少ないけど、楽しそうに話しているおばあちゃんを見ると、人と話すこともいいなあと思いました。

小4



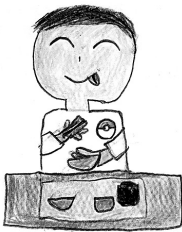
小4

▽ぼくは勉強をするのがあまり好きではありません。でも、おばあちゃんが、ぼくの書いている字を見て「〇〇くんはていねいに書くと、とっても字が上手だね」と言ってくれました。ほめられてうれしかったので、時間がある時は字をていねいに書きたいと思いました。

小4

▽ぼくのおばあちゃんは、野さいを育てています。おばあちゃんが育てている中で一番好きな野さいは、じゃがいもです。なぜならおばあちゃんのじゃがいもを食べると心が温かくなるからです。とくに一番温かくなるじゃがいもよりうりは、肉じゃがです。おばあちゃんのじゃがいもとお母さんの作った具とまざってもっと心が温くなるからです。ほかにも色々な野さいがあります。どれもおいしいので、おばあちゃんは野さいを大切に育てているなと思いました。ぼくもこんなおいしい野さいを育ててみたいと思いました。

小3



小3

▽私のおばあちゃんは、毎朝早く起きて町のゴミ拾いをしていています。なぜ、清掃をしてくれているのかを聞いてみると「自分の住んでいる町がきたなかったらいやだし、ゴミが川に流れて魚が食べてしまうことがあったり、自然環境が悪くなってしまうので、ゴミ拾いをして、その姿を見てゴミを捨てる人が一人でも少なくなれば」と話していました。その話を聞き、私は、心がポカポカしました。朝、早く起きゴミ拾いをするのは難しいけれど、時間があつたら少しでもゴミを拾いたいと思いました。

小6

▽私のおばあちゃんは、足が悪いです。でも、お買物も行くし畑仕事や草取りなどをしています。私は、時々手伝いをします。買物は荷物を持つてあげます。そうすると「ありがとう」と言ってくれます。また、畑仕事では野菜がいっぱい出来た時などは、重いから一輪車に乗せて運びました。おばあちゃんはどうかしらうでした。それを見た近所の人は「えらいねえ」と言ってくれて、私もうれしくなり、これからも手伝おうと思いました。

小6

▽ぼくが1年生の時、ひいおばあちゃんが亡くなりました。ひいおばあちゃんは、ぼくの音読をたくさんほめてくれました。とてもやさしいひいおばあちゃんだったので、亡くなった時、とても悲しかったし、家族ですごす時間を大切にしなければいけないと思いました。けんかをする時もあるけど、家族とすごす時間を大切にしたいと思います。

小3

☆友だちっていいな

▽私の友だちは、いつもだれにでもやさしいです。その友だちは、私がいやなことがあつて相談すると、よく話を聞いてくれます。ただ話を聞くだけじゃなくてアドバイスをしてくれます。その友だちがやさしいのは、私にだけじゃありません。こまっている人がいたらまっさきにかけて「大丈夫？」と声をかけてくれます。ほかに「手伝うよ」と言ってくれます。その友だちは、クラスのみんなからたよられています。私もその子みたいにみんなのあこがれになりたいです。



大丈夫？

小5

小5

▽私が委員会でいそがしくてあせってしまったときに友だちが「大丈夫？少し手伝おうか」と言ってくれ、手伝ってくれました。私がお子に「ありがとう」と言うと「ぜんぜん大丈夫」と笑いながら答えてくれたので、私もその友だちのように困っている人がいたら助けてあげられるような人になりたいです。

小5

▽ぼくのぶんだんには、やさしいおにいさんとおねえさんがいます。がつこうにいくとき、おにいさんとおねえさんがたのしいはなしをしてくれて、とてもうれしいです。ぼくもそんなひとになりたいです。

小1

▽私は、昼の放送当番の時「失敗したらどうしよう」「うまくできなかつたらどうしよう」と思
って自信をなくしていたので、友だちに相談すると「失敗してもだれもおこらないから自信をも
って」と言ってくれました。それから、放送の時間になってむりだと思った時に、友だちの言葉
を思い出して自信をもつて放送できるようになったので、すごく感謝しています。

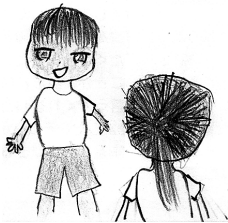
小6

▽ぼくは、毎朝こうみんなかで、分だんの人たちとあつまつて学校に行きま
す。ある日、こうみんなかで少しおくれて来た3年生の人を見かけたので、
走ってむかえに行こうとしていきおいよくころんでしまいました。右手右足
などをすりむき、とてもいたかったです。分だんのみんながしんぱいして「だ
いじょうぶ？」と言ってくれ、6年生のお姉さんが、ばんそうこうをくれた
ので、けがをしたところにはなりました。学校に行く時間が少しお
くれてしまいましたが、みんなはなにも言いませんでした。ぼくは、みんな
のやさしさがとてもうれしかったです。

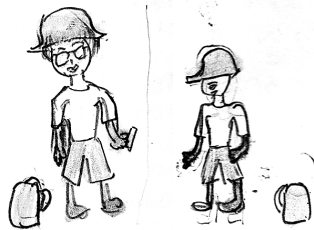
小2

▽わたしは、そうじ場所が外でした。虫がきらいだったので、場所をかえて
もらうように言ったら、2年生の子が「虫だいじょうぶだよ」と言つて場所
をこうかんしてくれました。わたしも、そういう人になりたいです。

小3



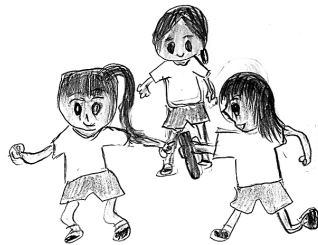
小3



小2

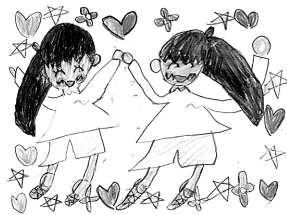
▽近所の友だちと遊んでいる時、運動会が近かったこともあり、クラスレールのバトンパスの練習をして遊んでいました。二人でなかなか上手にできなかったので、近くの6年生のお姉さんをさそってみました。お姉さんは、手の出し方や「もつとこうした方がいいよ」などとアドバイスをしてくれたり、練習もいっしょにつき合ってくれました。お姉さんのアドバイスのおかげでバトンもスムーズにできるようになりました。お姉さんは、相手チームだったけど、やさしくアドバイスをくれたり「がんばってね」とおうえんもしてくれました。あの時は、やさしく教えてくれてありがとう。

小4



小4

▽わたしには1年生からクラスがずっといっしょの友だちがいます。その子とはすきな遊びやキャラクターが同じで気が合うので、休み時間もいっしょにいっしょにすごしています。わたしは、その子を大親友だと思っていたけれど、はるかしくてなかなかつたえられずにいました。ある日、休み時間にその子と遊んでいたら、とつぜん「Kちゃんはわたしの大親友だよ!」と言ってくれました。わたしは同じ気持ちでいてくれたことがうれしくて「ありがとう!」



小3

わたしもSちゃんのことを大親友だと思ってるよ」とつたえました。あんなにはるかしくて言えなかったのに、言った後、心がポカポカしました。Sちゃん、ずっと大親友でいようね。

小3

▽漢字テストで100点をとれました。すごくよろこんだら、クラスのみんなが「すごい」とほめてくれました。ぼくも誰かが100点をとったらたくさんほめてあげたいです。

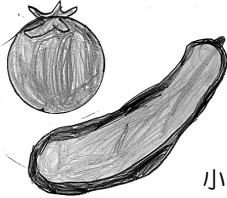
小3

▽ぼくのお父さんとお母さんは、ともばたらきで毎日いないので、お兄ちゃんといつも、おるす番をしています。夏休み中はあついで、外であそぶことができません。しゅくだいをやったら、あとはテレビゲームだけになってしまいます。そんな時に仲のいい友だちが、川あそびにさそってくれました。友だちといっしょにおよいだり魚を探したりして、久しぶりに外で遊んで気持ちよかったです。さそってくれた友だちと連れていくてくれた友だちのお母さんにかんしゃです。

小3

▽ある日、友だちが「うちの畑でとれたんだよ」と言ってトマトやきゅうりをくれました。お母さんは「新せんでおいしそう!」とよろこび、その日の夕ごはんにはサラダを作ってくれました。食べてみると、とてもあまくてみずみずしく、友だちのやさしさまで感じられました。ぼくも、だれかにやさしさを分けてあげられる人になりたいと心から思いました。そして、いつか自分も友だちや家族に小さな喜びを届けたいと思います。

小5



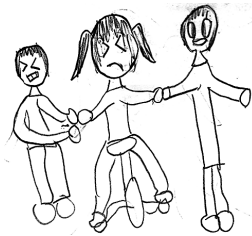
小5



小3

▽わたしが学校で一りん車をしていて、なかなかうまくできなかった時に、友だち二人が「手つだおうか?」「わたしも前はそうだったからだいじょうぶだよ」と言って両手を持って、わたしがたおれそうになったらささえてくれたりして、ずっとつきあってくれたのでうれしかったです。学校でこまっている子がいたら同じようにたすけてあげたいです。

小3



小3

▽6月に入り暑くなってきたので、日がさをさすと同じ分団の1年生の子が日がさに入ってきたから、日がさを貸してあげました。それから、毎日ぼくは日がさを持っていくようになり、いつもカバンに入れている折りたたみ傘をさします。ぼくは、その子が熱中症にならなかつたら、それが一番うれしいです。

小5

▽理科室で授業の終わりごろにいやなことがありました。そんな中、授業が終わり、教室に帰る時に暗い顔をしていると、友だちが「大丈夫?」と声をかけてくれました。でも私は「大丈夫」と言って、教室にもどってしまいました。友だちは、私を思っで心配してくれたのに、本当のことを言い出せませんでした。でも、そうやって人のことを思いやり、心配して声をかけてあげられる友だちは、すてきだなと思いました。

小5

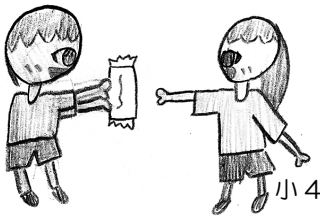


小5

▽友だちとけんかしてしまつて、私が悪かつたかなと思つたけれど、あやまれなかつた時に、それを見た友だちが「大じようぶ。あやまつたらきつと許してくれるよ」と言つてくれたので、あやまろうと思えました。私も、こまつている人がいたらたすけてあげようと思ひました。 小5

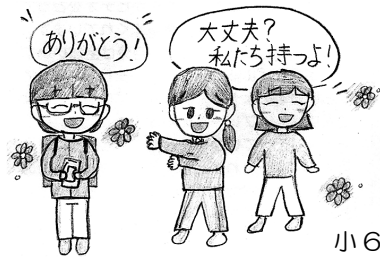
▽学校がえりにわたしは、しよんぼりしてゐました。ともだちとけんかをしてしまつたからです。なかなかおりしたい気もちがあつたけどできませんでした。家にかえつてから、わたしは、じぶんの気もちを手がみに書いて、ともだちにわたしました。ともだちは、手がみをかえしてくれて「ごめんね、お手がみありがとう」などと書いてあつてうれしかったです。なかなかおりできました。これからは、けんかをしないようにおたがいの気もちを話しあひたいです。 小2

▽2年前の夏休み、いつも学どうに行つてゐました。おやつ時間のことで。チョコとホワイトチョコの2種類のどつちかをえらぶ時、チョコの方がたくさんいたので、じゃんけんできめました。わたしは、じゃんけんに勝つたのでチョコがもらえました。けれど、同年の女子は「チョコしか食べれない」と言つていたので、自分のチョコを女子にあげてホワイトチョコにかえました。その女子は、「ありがとう」と言つてくれて、うれしくなりました。もつと、ほかのみんなにも、やさしくしたいです。 小4



▽私は、5年生の一月に病気にかかりました。調子がいい時は学校に行きましたが、階段の上り下りがつらく、荷物を持って歩くことも大変でこまっていた。すると友だちが「大丈夫？荷物持つよ」と声をかけてくれました。私は、友だちのやさしさに心が温くなりました。声をかけてくれた友だちに今でも感謝しています。ありがとう。今度、誰かがこまっていたり泣いていたりしたら、私を助けてくれた友だちのように「大丈夫？」と声をかけられるようにしたいです。そして積極的にお手伝いや話を聞くなどをして、心の温かい人になつてたくさんの人を助けたいです。

小6



小6

▽わたしは、かぜをひいてつらくてほけんしつで休むことができました。じゅぎようがおわつてからともだちがほけんしつまでむかえにきてくれました。わたしは、とってもうれしかったし、すこしげんきができました。やさしいともだちがいて、よかったなとおもいました。これからともだちをだいにしたいなとおもいました。

小1

▽わたしは、しばらく学校に行くことができなくて、ある日ゆうきが出て学校に行ったらクラスのみんが「大じようぶだよ」と言ってくれてよりそってくれたのでよかったです。わたしも、こまっている子がいたら手をさしのべたいです。

小3

▽少し前、ブランコに乗ろうとしました。でも、友だちが乗っていたので「乗れないからちがう遊びをしようかな」と思って少し待ちました。そしたら友だちが「代わろうか？」と声をかけてくれました。ぼくは、とてもうれしくなり、感謝の気持ちでいつもより楽しく乗れた感じがしました。待っている子がいたら、やさしく接して代わってあげたいです。

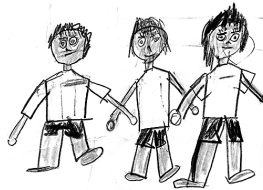
小5



小5

▽ぼくは、学校のかいだんでつまずいて落ちたことがあります。痛くて動けなかった時に、友だちが心配してすぐ先生をよびに行ってくれました。ぼくは、動けなくてどうしようかと不安でしたが、助けてくれるやさしい友だちがいてよかったと思いました。その友だちをこれからも大切にしていきたいし、もし友だちが困っていたらすぐ助けたいと思いました。

小5



小5

▽ある日、プールの授業をしていた。何事もなく終わると思ったが、足をすべらせてプールに落ちてしまった。すると「なにやってんだよ」「ふざけんな」などと言われてしまった。わざとじゃないのに、そのまま少し言い合いになってしまった。イライラしたまま教室にもどると、クラス友だちが「気にするなよ」と言ってくれた。その一言で、すごく心が温かくなった。

小5

▽僕は、瑞浪の花火大会の日、6人の同級生と一緒に行動していました。とちゅうで友だちとはぐれて一人になってしまい、いろんな所をさがしても見つけられず、泣きそうになっていた時、別の同級生に会いました。お金を使い切ってしまい、お母さんに電話できずに困っていた所でした。「お金は返さなくていいからこれ使ってお母さんに電話しな」と言ってお母さんに電話してくれました。お母さんは、なかなか電話に出てくれず、結局三百円も借りてしまいました。その後、友だちとお母さんに会うことができて安心しました。後日お母さんとお礼に行きました。

小6

▽ある日、くもんが終わった後、いつもならむかえにくるはずのお母さんがその日は来ませんでした。私の家は、くもんから遠いので、車がないと帰れません。私は、お母さんが近くのコミュニケーションセンターにいますかと思い、そこまで歩いていきました。しかし、そこにはお母さんがいないのでこまっています。その時、たまたまじゅくから帰ってきた友だちが来て「どうしたの?」と声をかけてくれました。その友だちに事情を話したら、

友だちのおばあちゃんが家まで送ってくれることになりました。私は、わざわざ遠くまで送ってもらうことに申しわけない気持ちになりましたが、二人の笑顔に助けられました。私もこまっている人を見かけたら、このことを思い出してやさしくしたいです。

小4



小4

▽わたしは、学校のきゅうしよくのまえに、はがすぐぐらぐらでした。そして、きゅうしよくのじかに、はがぬけました。そのとき、クラスのみんなが「おめでとう」といつてくれてうれしかったです。もし、クラスのどれかのはがぬけたら、もっとおうえんしてあげたいです。

小2

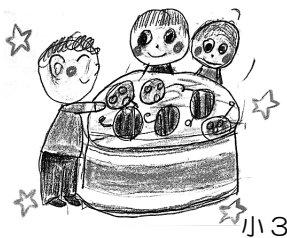
▽僕は今年、夏まつりの手伝いをしました。そこで友だちと二人で司会をしました。僕がきんちようしていた時に、友だちが「横にいるからいっしょに

がんばろう」と言ってくれました。たぶんその時、自分一人だったらちゃんとしやべれていなかったで、その友だちはぼくの心のささえになりました。だから、僕以外の人困っていたら手伝っておうえんしたいと思います。

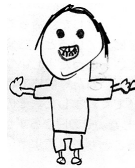
小6

▽いいなつの夏まつりがありました。ぼくは、家ぞくて遊びに行きました。ボーリングやわたあめ、ヨーヨーつりなどをすることができて楽しかったです。その時に、6年生のインリーダーの人が、ぼくと妹に「すごいね!」「できたね!」など、やさしく声をかけてくれて、とてもうれしかったです。いっしょけんめいじゅんぴをしてくれたことも、当日にもり上げてくれたことも、全部かっこいいと思います。ぼくもあんなお兄さんお姉さんになりたいです。

小3



小3



小2

▽わたしの、学校には、外国から来たふたごがいます。わたしは、外国から来たふたごが来てから、ちよつとずつえいごがわかつてきてうれしいです。このふたごは6年生までずっと同じ小学校にいるかもしれないので、6年生になるまでにちよつとずつえいごをおぼえていきたいです。外国から来たふたごも、どんどん日本語をおぼえてきているので、わたしも日本語をおしえていきたいです。

小2



小2

▽ぼくは、外国から日本にきました。だから、はじめはきゆう食もすきなものはあまりありませんでした。デザートプリンが出たとき、たのしみになっていたプリンをおとしてしまいました。そのとき、ともだちが「ぼくのをあげるよ」と言ってくれました。日本の友だちのやさしさに心がぽかぽかしました。

小2

▽わたしは、5月に外国から日本に来ました。はじめはとてもふあんでした。でも、友だちが教えてくれたり手つだってくれて、だんだん学校の生活のしかたがわかりました。今は、日本のジャンケンやてつぼうもわかったのしいです。たくさん日本語をおぼえたいです。

小2



小2

▽親友がぼくの家に遊びに来た時の話です。ぼくだけじゃなく、ぼくの妹や弟ともなかよく遊んでくれました。妹と弟がうれしそうで、ぼくもうれしくなりました。ぼくも親友みたいに、だれにでもやさしく楽しく遊べるようになりたいです。

小3

▽僕は、野球で高野山へ行きました。一日目の夜、祭りへ行きました。のどがかわいて水を買おうと思ったら自はん機が三つあり、一番高いところで買ってしまった。買った後に安いところを見つけたけれど、20円しかないのも何も買えません。ショックだった時、先ばいが「買ったらか？」と言いました。さすがにおごるのと一緒だったので「大丈夫」と言いました。心が温かくなり、ショックだった気持ちがいれしくなりました。ぼくもこんな人になりたいと思いました。

小5

▽ぼくは、はじめて家ぞくいがいの人と二日間おとまりをしました。ならいごとのがっしゆくです。よるこわいゆめを見ておきると、6年生のおにいさんが「大じようぶ？」とこえをかけてくれてトイレについていってくれました。ぼくは「ありがとう」というきもちになりました。次の日、レッスン中にはなちが出たら、高校生のおにいさんがティッシュをくれました。はじめてのおとまりは、さいしよはしんぱいだったけど、やさしいなまがいつぱいいることをかんじました。ぼくもやさしいおにいさんみたいになりたいです。

小2



小2

★クラブ・習い事

▽僕は、6年生で野球をやっています。次の試合で小学生最後の大会になります。僕がやっているチームはあまり勝てません。なので、少しでもこうけんできるよう自主練習を家や学校でして、いつもそれをおばあちゃん、おかあさんが見守ってくれました。試合の日、僕たちは一生けんめい戦ったけれど負けてしまいました。家に帰ると「試合は負けちゃったけどナイスプレー」と家族みんながほめたたえてくれました。おばあちゃん、お母さんが自主練習につきそってくれてありがとうございます。僕もだれかが後で笑顔になれるようどんどんこまっている人を助けたいです。



小6

小6

▽僕は、野球のスポーツ少年団に入っています。必ず勝ち負けがつくので相手チームの選手はライバルです。でも、白熱した試合の中で、相手がとれなさそうなボールに飛びこんで、いいプレーをしたら、自然と「ナイスプレー!」と声を上げライバルをたたえます。相手キャッチャーが、面をなげすててボールをキャッチした時には、その面を、自分のユニフォームのズボンでふいて渡します。野球はユニフォームが違っても、同じスポーツを好きな仲間同士相手を尊重しあえるすてきなスポーツです。僕は、プレーだけでなく、そういう場面でも心が熱くなります。

小6

▽ぼくは、やきゅうのスポーツしよう年だんに入っています。学校がお休みの日は、父と兄とれんしゅうにいつています。夏のグラウンドはものすごくあついけど、がんばっています。ぼくの家ぞくはみんなおうえんしてくれています。近じよの人も会うと「おうえんしているよ」と言ってくれます。みんながおうえんしてくれるから、がんばれます。いつかあいにかつて、おうえんしてくれたみんなにありがとうの気もちをつたえたいです。

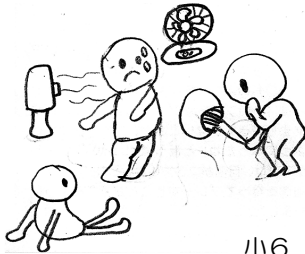
小2

▽僕は、野球をやっています。あるお父さんから「このチームでずっと野球をやりたい」とメッセージをもらいました。僕も同じ気持ちだったのでもうれしかったです。これから長くがんばりたいと思いました。

小6

▽夏の時、サッカーの試合をしている時に体調が悪くなりました。その時の気温はとても暑く熱中症になりやすかったです。おそらく自分は、熱中症に近い状態でとてもえらかったです。僕がたおれていると、チームメイトのみんなが水をたくさんくれたり、うちわやせん風機を使って涼しくしてくれたりして早くなおるようにしてくれました。僕は、途中で帰りましたが、その時のことを忘れていません。もし他の人がそうなってしまった時は、僕もみんなのようにしていきたいです。

小6



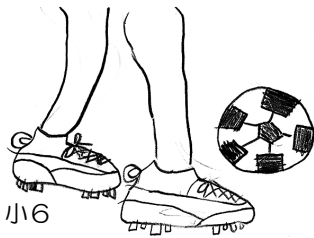
小6

▽僕は、サッカークラブに入っています。サッカーの試合で勝った日のことです。僕たちのサッカークラブでは、試合に敗れたチームの人がグラウンドの整備をし、勝ったチームの人のだれかがコーンやマーカーを片づけることとなっています。僕は、試合に勝つことができたので「だれかが片づけてくれるだろう」と思い車に乗りこみました。車が発しグラウンドの方を見ていると、勝った僕たちのチームのビブスを着た友だちが一人で、コーンやマーカーを片づけているのを見て「これから僕もやろう」「次会ったらお礼を言おう」という気持ちになりました。この出来事を体験して、人があまり意識したり見ていない所で動けるといいうことはとてもすごいし、見習いたくなりました。

小6

▽僕は、サッカーをやっている。今年の夏は合宿があった。とても暑くてやる気が少し出なかったことがあった。だけど、チームの友だちが「がんばろ」と言ってくれたおかげでやる気になり、6試合中3回勝つことができた。つらい時ややる気をなくすこともあるけど、チームのみんながたがいにはげまし合ってがんばれているからこそ、一ち団結して試合に勝つことができると思う。

小6



小6

▽僕は、サッカーを習っていていそがしいです。なので、家族と話す時間が少なくなっています。いつものようにお父さんと練習をしていると、お父さんが「今日の学校はどうだった？授業は楽しかった？」と聞いてきました。ぼくは「楽しかったよ」と言いました。僕は、サッカーのおかげで家族との会話が最近増えてきています。サッカーありがとう。

小6



小6

▽私は、学校のバレーボールクラブに入っています。得意な子もいれば得意じゃない子も自由に参加しています。私は、個人的には得意じゃないと思います。急なボールに反応できないし練習も失敗してばかりいます。ある練習試合で私に向かってボールが来た時でした。私は、びっくりして手を動かしただけ、変な方向にとんでいきアウトでした。とてもさんねんではずかしくて悲しくなりました。でも、同じチーム仲間の6年生の人が「次はいけるよ！おいしい！」とやさしい言葉をかけてくれました。私は、とても心がポカポカしました。元気になったおかげか一点入れることができました。すると今度は、他の人も「すごいね」や「やればできるじゃん」とハイタッチをしてくれました。みんな当たり前のように言ってるけど、私はなかなかできないすごいことだと思います。今度は、私がお父さんに言いたいです。ポカポカの心がふえてほしいです。

小5



小5

▽とても暑い中、私は、バレーボールの練習をしていました。みんなが何本も打てるようにずっとトスをあげ続けていました。水分補給もなしで動き続けたので、熱中症や脱水症状のように目まいがしたり、吐き気もありました。でも、バレーがしたくて、みんなに言えませんでした。すると、一人の友だちが「大丈夫？少し休んだ方がいいよ」と代わりのセッターの子を呼び、私を水とうがある所まで連れていってくれました。その時、私の目には、その子がヒーローのように見えました。それから、ずっとその子とは仲良くさせてもらっているし、周りの子が苦しんでいたら、気がついて助けてあげようと思っています。

小6



小6

▽私は、ならいごとで陸上をしています。私は大会で「走りたくない、出たくない」など思っています。そんな中、私のライバルの子が温かい言葉で「だいじょうぶだよ。私についてきてね」と声をかけてくれました。私は、その子のおかげで自己ベストを出すことができて、みんなにほめてもらいました。私は、その子にかけてもらった言葉は、一生わすれることなく今も、自己ベストを出しながら陸上をがんばっています。私は、その言葉を聞いてからこれから、ふあんな子がいたら温かい言葉をかけられるすてきな人になれたらなと思っています。私に温かい言葉をかけてくれてありがとう。

小5



小5

▽私は、陸上をやっています。リレーで走っていたら、急に太ももがとつてもいなくなりました。陸上のリレーのルールは、負けたチームは、かたづけをすることです。私のチームは、負けてしまいました。私がコーンをかたづけていると、他の小学校の男の子が、私の持っていたコーンを持ってくれました。私は、その子みたいなやさしい人になりたいと思いました。困っている人がいたら助けてあげたいです。

小4



小4

▽わたしは、りくじようにかよっています。足をきたえているけど、はやい人は50mが8秒で走れます。わたしは、10秒なのでまだまだ体力をつけたいです。10月に大会があつて練習していたけど、せん手にはえらばれませんでした。ざんねんだったけど、走っているときにみんなが「がんばれ!」と言ってくれる声を聞くと力が出てうれしい気持ちになります。次は、せんしゅにえらばれて、また一歩せい長します。

小3

▽ならいごとのチアダンスでまちがえちゃったとき、おちこんでいたら、ともだが「だいじょうぶだよ。つぎまちがえなかつたらいいよ」といつてくれました。そのことばがとてもうれしかったので、またいっぱいれんしゅうしてじょうずになりたいです。

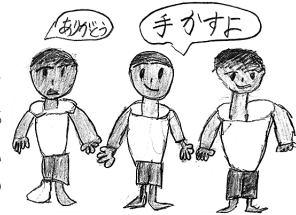
小2



小2

▽僕は、4年生の時に柔道で足をねんざしました。学校では、階段の上り下りが大変だったし足もいたくてとても困っていました。そして友だちが「手かすよ」と言ってくれました。そのおかげで階段の上り下りが楽になりました。僕は、今も二人の言葉にすぐわれています。次は、二人が困っていたら助けたいと思いました。二人ともありがとう。

小5



小5

▽私は、ピアノを習っています。5年生の時、卒業式でピアノをひくことになりました。いつもひく曲より難しく、休み時間や家でたくさん練習しました。練習の時にまちがえても、指揮者の友だちが「だいじょうぶだよ」と声をかけてくれて安心しました。卒業式でピアノをひいて卒業式が終わった後に、先生や友だち、習い事の先生から「よくがんばったね」「すごいね」などと声をかけてもらってうれしかったです。

小6

▽私は、ピアノを習っています。どうしても速い曲をひくと音はずれてしまったりしてすぐにあきらめてしまいます。ある時、上手にひけなくて落ちこんでいたら、お母さんが「今日は、もう休んだら？いつもがんばってるしあなたなら絶対できるよ」と言ってくれたので元氣が出ました。ちよつとずつ丁寧に練習して、すらすらとピアノがひけるようになりました。これからがんばります。

小6

★先生ありがとう

▽私の通学路にある学校近くの横断歩道には、いつも校長先生が立ってくれています。夏の暑い日も雨が降っている日でも、笑顔で「おはよう」と声をかけてくれます。車がたくさん通る場所なので、校長先生がいてくださると安心して横断歩道を通ることができます。そして、私も笑顔になって、今日も一日がんばろう！という気持ちになります。校長先生、いつもありがとうございます。休み明けからは、自分からあいさつできるようにしたいです。



小6

小6

▽私は、学校で、毎週水・木曜日に委員会活動をしていて、曜日によってちがう活動をしています。その中でもとくに、木曜日は、げんかん前を大きなモップでゆかをふいています。その時に、横を通りかかった先生たちが「そうじ、ありがとうね」と、えがおで言ってくれたので、思わず私も「はい！」と、えがおで答えました、その時、心の中で「だれかの言葉で、相手がうれしくなったりするんだな。言葉やえがおって大切なんだな」と思いました。わたしもだれかにえがおを見せて言葉をかけたいなと思いました。

小5

▽夏休み前のさい後の日、ぼくは坂道で転んでしまいました。先生から「学校にもどる？」と聞かれ「大じょうぶ」と答えました。お母さんがしごとでむかえに来られないからです。歩いていると、血がだらだら流れて、きず口はズキズキいたみます。血をハンカチで止めるために休んでいると、おばあちゃんが車でむかえに来てくれました。先生が、電話をしてくれたそうです。ぼくは、知らないところでたくさんの人にささえられていたことを知り、とてもうれしくなりました。きずもいたくありません。

小4

▽学どうで遊びの後に、先生がかた付けをしようとしていました。それを見てぼくは、いつしよにかた付けをしようと思いました。かた付け終わったら、ぼくにとくべつな物をくれました。すごくうれしい気持ちになって、手つだつてよかったと思いました。これからも自分から手つだいたいです。

小4

▽私は、6才からそろばんをならっています。はじめは、なかなかできなくてくやしなきをしていました。その時に先生は「やればできるよ。がんばれ！」と応援してくれました。私も困っていたりできなくて泣いている子がいたら先生みたいに「やればできるよ。がんばれ！」と声をかけてあげたいです。

小6



小6

▽僕は、小さいころからきつ音があります。僕が小学校低学年の時の校長先生が、僕のきつ音について学校の全校集会で話してくれました。その時に、金子みすずさんの「私と小鳥と鈴と」の歌を紹介してくれました。その話の中で「みんなちがってみんないい」と言う部分があつて「それぞれ個性があつてそれで良いのです」と言ってくれました。僕は、このままの話しかたでいいのだと思いました。校長先生の言ってくれた「みんなちがってみんないい」と言う言葉を一生忘れないと思います。

小5

▽私は、じゅくに通っている。その時、先生がちがうクラスに行ってしまったので一人でやることになった。私は、いつもとちがうかんきようにすぐこんらんしていた。一人で静かにやる中で、まるつけや分からなかった時に教えてくれる人がいない。ちょうど先生が来て教えてもらえたが、来なかったらどうなっていただろう。私は、これからも先生に感謝しようと思う。

小5

▽ぼくは、そろばん塾に通っています。ある日、いつものようにそろばんを終え帰ろうとしていました。その日は、雨がふっていてかさを持つてくるのをわすれ、親には歩いて帰ると約束していたので、どうしようかと思っていたら、そろばんの先生がかさを貸してくれました。かさを貸してくれなかったら雨の中歩いて帰らなければいけなかったので本当に助かりました。「ありがとう先生」と言つて帰りました。

小6

☆地域のつながい

▽東大島では、子ども会の行事で虫送りがあります。農作物に虫がつかないでたくさんとれるように虫をおいはらう行事です。子どもが竹の人形やささを持って歩くから、そのために地いきの人がそれをじゅんびしてくれます。私たちは、おり紙をささに付けるだけで、あとは全部地いきの人がじゅんびしてくれます。この行事ができるのは、地いきの人がじゅんびしてくれているからです。歩き終わったらおこずかいがもらえます。地いきの人に感しゃしてこの行事がずっとつづくと思います。

小4

▽わたしは、2年生の時に、半原のすおどりをやることになりました。むずかしくてなかなか覚えられなかったけれど、地いきの人やいっしょにおどるなまがやさしく教えてくれたり、はげましてくれたり、いっしょにがんばっておどってくれたので、おぼえられました。とてもうれしかったです。そして、3年生になった時、新しいなまが入ってきました。ちよつとドキドキしたけれど、なじんできていっしょにがんばろうと思いました。これからもいっしょにがんばりたいです。

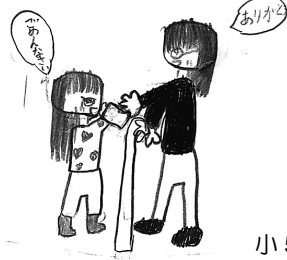
小4



小4

▽ようち園の時、おばあちゃんと遊んでいたら、近所のおばあさんが来て、おばあちゃんと話をずっとしていました。その時、私は、おばあちゃんと早く遊びたかったので「早く帰って」と言っていました。そして、おばあさんは「ごめんね」と言っていました。その後、私が謝罪の意味もこめてお手紙をわたしました。数日後に、おばあさんがお手紙をくれました。私がおこったのにお手紙をくれるなんてやさしいなと思いました。

小5



小5

▽朝、ランニングをしている時に地域の人が「朝早くから、頑張ってるね」と声をかけてくれました。それに対して僕は、「ありがとうございます。もっと頑張ります」と返しました。「朝早くから頑張ってるね」と言われてもっと頑張ろうと思いました。僕も周りに頑張っている人がいたら「よく頑張ってるね」とほめたり、応授できるようになりたいです。

小6



小6

▽なつやすみのしゅくだいで、あさがおのかんさつがありました。でも、ぼくのあさがおは、なかなかさきませんでした。きんじよのおばさんのいえに、おねがいにくくと、あさがおを見せてくれました。「いつでもおいで」といってもらえてうれしかったです。

小1

▽ぼくのボールが雨で流されてしまった時に、近所の人がボールに名前が書いていないのにとどけてくれてありがたかったです。これから近所との関係を深めたいです。

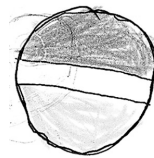
小5



小5

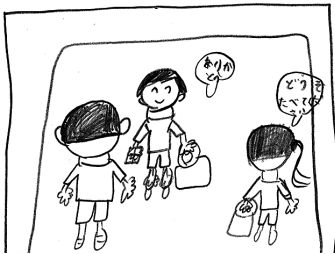
▽土日の朝、ぼくが野球の練習に行くときに、家の前の歩道の草とりをしているおじさんを見かけました。その歩道は、草がボーボーだったので、通りたくありませんでした。朝早くからおじさんが、何日もかけて草とりをしてくれたおかげで歩道がきれいになって通りやすくなりました。その日、野球の練習があつて手伝えなかつたので、来年はお手伝いしたいです。おじさん、ありがとうございました。

小3



▽毎年きんじよのおばちゃんに、ほうばずしを持って行きます。持つて行くとき、おかしをごほうびにくれるので、わたしたちはとてもうれしいです。きんじよのおばちゃんも、わたしたちが持つて行くので、とてもうれしいと思うし、これからも、わたしたちでとどけに行きたいなと思います。朝の登校のときも「いつてらっしゃい」などの声をかけてくれます。だからわたしたちも、毎日元気に学校に行けるのでうれしいです。これからもほうばずしをとどけに行きたいです。

小3



小3

▽わたしは、いえのちかくではたけをやっているおじさんにあいさつをしました。おじさんもかえしてくれて、あつたときはあいさつするようになりました。あるとき、いっしょうけんめいそだてたさつまいもを、やきいもにしていえにとどけてくれました。とてもおいしかったです、うれしいきもちになりました。

小1

▽きんじよのひとりぐらしのおばさんに、おかしをおすそわけしました。おばさんは、おかえしにとクロウリというやさいをくれました。おばさんは、あつい日でもはたけでくさむしりや水やりをしているすがたを見かけます。たいせつにそだてたやさいをわけてもらって、おばさんのくろうとやさしさをいっしょにうけとつたきがします。

小1

▽私のちよつといい話は、近所のおばあさんの手助けをしたことです。そのおばあさんは、足が悪くて朝・昼・夜と外を歩いていました。夜(夕方)、ちよつどおばあさんに会った時、ゆつくり歩いていたので「大丈夫？」と声をかけて車からおりました。見たいテレビがあつたけれど、一分ほど歩くのを手伝いました。テレビの時間をすぎたけれど、おばあさんに「ありがとう」と言ってもらえてうれしくなりました。これからも歩いて元気でいてほしいです。また、出会ったら助けてあげたいです。

小4



なうれしい出来事

▽私はインリーダーに入っています。夏祭りでは、わたあめの屋台の手伝いをしました。同級生の子もほとんどがインリーダーに入っていて同じわたあめの屋台たんとおの子もなん人がいました。手伝いをしてる中、いきなりわたあめが人気になり、いそがしかったけどみんなもらった後、ちゃんと「ありがとう」と言ってくれていそがしくても手伝いが楽しいなと思いました。

小6



小6

▽万博に行った日の夜、ホテルのエレベーターに乗っていたら、万博のチュニジアという国ではたっている外国の女の子がチュニジアのはたをくれました。ニコツとわらってわたしてくれて、心がとても温かくなりました。わたしもそんな心がやさしい人になりたいと思いました。

小3

▽ぼくの住んでいる所は、近所全て同じ苗字です。なので、おじいさんもおばあさんも、おじいさんもおばさんも下の名前呼びます。そうでないと全員ふりむいてしまうからです。人の名前って覚えるのは大変だけど、ぼくも下の名前前で呼ばれていて、80才のおじいさんをおぶ時は、ぼくも下の名前前で呼びます。なんだかすぐく年のはなれた友だちみたいでうれしくなります。

小5

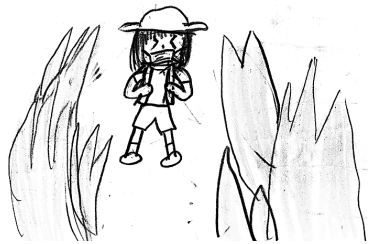
▽お兄ちゃんの高校野球の夏の大会の応援に行きました。そこでは、部員の他にも、家族や友だち、応援団やチアなどたくさんの人たちがおたがいのチームの応援をしていました。お兄ちゃんのチームが勝った後、相手チームはくやしくて悲しいはずなのに、お兄ちゃんのチームに向かってエールを送ってくれました。そして、お兄ちゃんのチームも「次の試合もがんばるよ」の気持ちを込めてエールを送りました。それを見ていた私は、心がじんわりと温くなりました。小6

▽私は、人前で話すことが大の苦手です。学校のクラスで話すことすらも苦手ですが、そんな私が主張大会に出ることになりました。不安な気持ちでいっぱい「出たくない」と思う時もありました。でも、そんな私を支えてくれる学校の先生や家族や親せきがいたおかげで100人くらいいる会場で堂々と話すことができました。私は、それがきっかけで人前で話すことが少し上手になりました。これからも、主張大会のことを思い出していっぱい発表していききたいです。小6

▽私は、小学3年生からかみの毛を伸ばしています。理由は、病気でかみの毛が抜けてしまったりした方にあげたいからです。名前をヘアドネーションといいます。そのために、伸ばしてきたかみを夏休みに30センチ以上切りました。美容院の方に「ありがとね」と言ってもらえました。うれしかったです。少しでも喜んでくれる方がいたらいいなと思いました。小5

▽わたしの通学路には、道はばがせまいところがあります。その道は、夏になると両側から草が生えて、よけないと通れません。昨年は、夏休み中に草が成長してたくさん生えてしまっていたので、わたしとお母さんと草をぬいたり切ったりして、夏休み明けにみんなが通れるようにしました。暑かったし、草もなかなかぬけず大変でした。でも、今年は、なぜだか草が生えてきません。当たり前のように毎日通っていたけど、だれかが草を切ってくれていることに気がつきました。草のびる前に切ってくれている人がいるようです。本当にたすかります。わたしだけではなく、その道を通る人もきっとそう思っていると思います。もし、その人に会えたら必ずお礼を言います。わたしたちの安全のために「いつもありがとうございます」と心からありがとうございますの気持ちを伝えたいです。

小4



小4

▽ぼくは、こうえんであそんでいきゆうけいをするためにベンチにすわっていたら、知らないおじいちゃんがとなりにすわって「あついなあ」と話かけてきました。ぼくは、知らない人なので少しこわかったけど、ゆうきを出して「こんにちは」とあいさつをしました。そしたらおじいちゃんはニコニコして「こんにちは。いいあいさつだな」と言ってくれました。なんだかこころがうれしくなりました。

小2

▽私は、夏休みにお母さんの働いている保育えんで保育士さんたちのお手伝いをしました。まず一日目に小さい子たちとプールに入ったり、ごはんを食べさせたり、ねかせたりしました。そして二日目、小さい子たちをトイレに行かせたりしました。そこで、保育士さんに「しょうらいのゆめは？」と聞かれ、私は「保育士になることです」と言いました。そしたら「むいている」「なれると思うよ」と言う言葉をかけてくれました。それを聞いた私は、うれしくて、より保育士になりたい気持ちが大きくなりました。

小4



小4

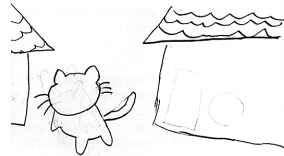


▽公園に行く時、車にひかれたねこを見つけました。そのねこは、まだ息をしていたので公園に急いで行って、そこにいた友だちに「ねこがひかれてる！」と伝え、みんなでいっしょにねこがいる場所まで行きました。でも私たちは、けいたい電話もなにも持っていませんでした。車は、よけるばかりだったのでダメかもしれませんが、私は少し道路に出てしゃがみました。どうすることもできず困っていたら、他の子も来てくれました。でもやっぱりなにもできず「どうしよう」と言っていました。私たち小学生が道路に出ていたからか多治見から来た人が止まってくれ、じじょうを説明すると動物病院に電話をしてくださいました。急なことだったので優しく対応してくださり感謝でいっぱいでした。

小6

▽あさおきると、うらははたけからねこのこえがきこえてきました。はたけのおばあさんが「たすけて」と、わたしのおうちにはしつてきました。あかちゃんのおねこがあみにひっかかってうごけなくなっていたのです。パパは、パジャマのままはしつていつてねこをたすけました。ねこは、げんきにかえりました。ねこがけがをしていなかったのです。

小1



小1

▽お母さんの運転する車に乗っている時、車いすに乗ったおじいさんが一人で道を横断しようとしていました。車いすを足でこいでいたので、すぐ時間がかかっていました。僕たちは、おじいさんをあせらせないようにゆくり待っていると、後ろから来た車が止まり、おじいさんのところへ行き、車いすをおしてあげていました。すぐに行動ができてすごいと思いました。こまっている人を助けることは少し勇気がいるけど、そんな人になりたいと思いました。

小5

▽この前、お母さんと弟とラーメンを食べに行きました。その時に、かき氷が倒れてこぼれてしまいました。となりの席の人や、お店の人が、ふく物を持って来てくれてとてもうれしかったです。もう一人のお店の人は「大丈夫だよ」と声をかけてくれて、新しいかき氷を持って来てくれました。ぼくが、お礼を伝えると「気にしないでね」とやさしく言ってくれたので、こぼしてしまつて不安だったぼくの気持ちが温かい気持ちになりました。

小6

▽おかあさんとスーパーでおかいものをしていたら、まえからおばあさんがあるいてきました。ぼくは、おかあさんのよこにいたけれど、うしろにさがってつうろをあけました。ぼくのよこをとおったおばあさんが「あけてくれてありがとう。とおりやすかったよ」といって、ぼくのあたまをなでてくれました。「ありがとう」といってもらえてうれしくなりました。ぼくも、だれかにやさしくしてもらったら「ありがとう」とつたえたいとおもいました。

小1



小1

▽僕と妹は、コンビニエンスストアに行きました。飲み物を手に取ろうとならんでいた時、僕たちの前にいたお兄さんたちが、「通っていいよ」とやさしく声をかけて、ゆずってくれました。なので、ぼくたちは早く飲み物を選びました。僕もお兄さんたちのようにすぐ気づいて、ゆずってあげられるようにしたいなと思いました。

小5

▽スーパーでおかしをひとつ持ってレジにならんでいたら、前のおばさんが「私はいっぱい買うからお先にどうぞ」と言って先にお会計をさせてくれました。お金を払った後に「ありがとうございしました」とお札を言ったら、笑顔で頭をさげてくれました。僕もおばさんみたいなやさしくて気のつかえる大人になりたいです。

小5

▽わたしは、よくお母さんのお買物についていきます。レジにならぶと店員さんに「ありがとうございます」と言われてまたついていこうと思いました。ちがう日にお買い物に行きました。レジにならぶと「お母さんといっしょに来てくれるね。いつもありがとうございます」と言われて体がポカポカしました。

小3

▽私が家族とスーパーに行った時のことです。レジでお会計をしてもらった時、レジの店員さんがいっしょにならんでいた一才の弟のすがたを見て、とっさにティッシュで鼻水をふいてくれました。店員さんは、レジでお会計をするだけで、気づいたとしても見て見ぬふりもできたはずなのに、細かい所も気にしてふいてくれたので、ステキだなと思いました。その後も、弟は、店員さんとたくさん話していました。その時もやさしく「そうだね」「うんうん」と話してくれていて、すごいな、やさしいなと思いました。私もその店員さんのように気づかいできるような人になりたいなと思いました。

小5



小5

▽スーパーへ買い物に行った時、ふくろが小さすぎて全部入らなくて困っていたら、近くにいたお姉さんが少し大きめのふくろを持ってきてくれてとてもうれしかったです。だから、私も、困っている人がいたら進んで助けたいと思います。

小6

▽この間、きかんげんていのスイーツを買いに行った話です。人がたくさんならんでいて、行った時にはのこりわずかでした。間に合うかなといそいでいたら、近くにいたおねえさんが「先どうぞ」と言ってゆずってくださいました。ゆずってくれたおかげでおねえさんも買えたとし、自分の分も買えたのでよかったです。

小3



小3

▽ぼくは、玉ねぎがきらいです。でも食べられる玉ねぎがあります。それは愛媛県にいる親せきの人が作った玉ねぎです。この玉ねぎは丸ごと食べられるくらいあまくておいしいです。食べた後、おれいの手紙をお母さんと書いて送りました。その手紙を受け取ったしんせきの人は、とてもよろこんでもう一度玉ねぎを送ってくれました。うれしかったです。

小4

▽ぼくは、初めてとこやに行きました。順番を待っている時、車いすに乗った高齢者がドアを一人で開けられずにいたら、となりで順番を待っていた高齢者の人が素早く席を立ててドアを開けて、あたたかい声かけをしてあげていました。それを聞いたぼくも心が温かくなりました。ぼくもゆずり合いや思いやりのある心を持ちたいと思いました。

小6

▽夏休み中にお母さんと電車に乗って出かけました。駅に着いて電車に乗ると、思っていたよりも人がたくさんいました。すわるところが少なくて席をさがすと、一人分すわれるところがあつて、お母さんが私を先にすわらせてくれました。けれど、となりの人は知らない人で少し困っていたら、となりの人が、私のお母さんに席をゆずってくれて、安心して電車に乗れました。私も、困っている人がいたら席をゆずってあげたいと思いました。

小6

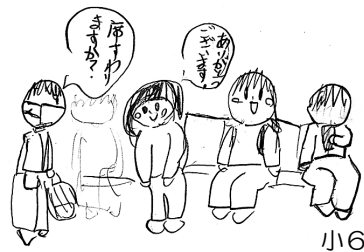
▽今年の夏休みに、家族で新幹線に乗って旅行に行きました。中央線から新

幹線に乗りかえるために名古屋駅で階段をおりる時、知らない人が、ぼくのおばあちゃんに「荷物持ちましょうか？」と、おばあちゃんのキャリーケースをはこんでくれようと声をかけてくれました。ぜんぜん知らない人にもやさしくできるなんてすごいなあと思いました。

小6

▽ぼくとお兄ちゃんと一緒に電車に乗った時に、お兄ちゃんが年配の人に席をゆずっていました。おばあちゃんは「久しぶりにこんな人を見たわ。ありがとうね」と言ってくれました。お兄ちゃんは「当たり前のことをしただけです」と言っていて、ぼくは、その言葉を聞いて、真似したいなと思いました。

小6



小6

▽僕と母がバスに乗った時の話です。20代くらいのお兄さんが、イヤホンで音楽を聴きながら乗って来ました。席に座ってものりのりで隣席に人はいないけど、少し迷惑な人だなと思っていました。停留所でバスが停まり小さな子供を連れのお母さんが乗ってきました。すると、のりのりのお兄さんがさっと席を立てて二人にゆずりました。のりのりは少し残念だけど、スマートにゆずる姿はいいなと思いました。

小6

▽私が、おばあちゃんとバスに乗った時のことです。バスが目的地に着いて料金箱にお金を入れておいた後、バスの運転手さんが追いかけてきて「お客さん100円多いですよ」と、100円をとどけに来てくれました。バスには他にもお客さんがいたので待たせてしまうことにもなるし、一度おりて追いかけるのも大変なはずなのに、わざわざとどけに来てくれた運転手さんは、とてもやさしいんだなと思いました。

小6

▽ぼくが水ぞくかんで魚たちを見ていたら、となりから、「きも」と言っている人たちの声が聞こえました。しばらくして、となりにいた人たちはどこかへいってしまいました。その後、ちがう水そうに行った時、またその人たちに会いました。でもちがう人が来て「そういう言い方はやめてください」と言っていました。ぼくもその人になりたいなと思いました。

小5

▽私は、瑞浪市内の中学校のサマースクールへお母さんと車で向かっていました。すると、登校していた生徒さんが、友だちと話していたにも関わらず、私たちの方を向いて立ち止まって深くお辞儀をしてくれました。私は、その時「サマースクールに行きたくないな」というゆううつな気持ちでした。しかし、お辞儀をしてもらって心が温かくなり「こんなすてきな人がいる中学に入りたい」と思い、明るい気持ちでサマースクールに参加することができました。

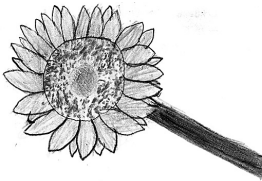
小6



小6

▽ある日、学校へ行くバスでいにある花だんを、友だちのお母さんがきれいにしてくれました。いっぱい生えていた草がなくなり、土もふかふかになっていました。そして、友だちのお母さんが「お花を植えましょう」と言って、お花のなえを用意してくれました。ぼくたちは、ワクワクしながら集まって、なえを土に植えました。ぼくは「きれいにさくといいな」と思いながら植えました。しばらくすると、いろいろな色の花が花だんいっぱいになり、とてもきれいになりました。学校へ行く時、その花だんを見るとうれしくなります。友だちのお母さんが、花だんをきれいにし、みんなで花のなえを植えて楽しい思い出ができました。これからもこの花だんを大事にしていきたいです。

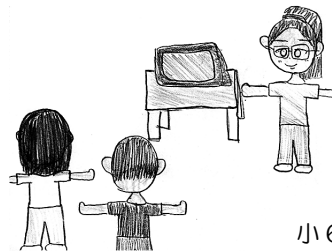
小4



小4

▽私の支部は、夏休み中ラジオ体そうがありません。けれど、友だちのお母さんが去年の夏休みも今年の夏休みもラジオ体そうをいろいろな人に声をかけてやってくれました。ラジオ体そうをやる、と、すごく気持ちがよくて、いいなと思います。それに、ラジオ体そうがないときには、朝早く起きられず、だからどうしてもすることがあるけれど、ラジオ体そうがあると、朝早く起きることができ、帰ってきてからも勉強が進みます。ラジオ体そうをきかくしてくれた友だちのお母さんにラジオ体そう最終日に「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えたいです。

小6



小6

▽竜吟の滝のホテルまつりは、残念なことに雨でした。それでも、私が作ったランプシェードも見たいからと家族が言うので見に行きました。でも、ランプシェードがどこにあるかわからず、スタッフの方に聞いてみました。「雨だからやってない」と言われて、残念な気持ちでしたが、先程の方が走って探しに来られて「やってるから入口の方へあがっていつてね。ホテルもここがよく見えるよ」と教えてくださり、とてもきれいに見えました。しょんぼりした気持ちになったけど、最後は、うれしい満足した気持ちになりました。スタッフの方、雨の中大変なのにありがとうございます。

小5



小5

中学校編



☆ あいさつでニコニコ笑顔	53
☆ 家族っていいな	56
☆ 友だちっていいな	70
☆ 部活・クラブ仲間とのきずな	84
☆ 先生ありがとう	99
☆ 地域のひととのつながり	101
☆ ボランティア	106
☆ うれしい出来事	108



おあつちやにワイルド笑顔

▽私は、二匹の犬を飼っています。最近暑くなってきたので、朝早く起きて散歩に行っています。私の地域は、たくさん犬を飼っている人がいるので、よくすれ違っています。犬を飼う前は地域の人に登下校中ぐらいしか挨拶する時がなく適当にしていたけれど、犬を飼いはじめからは、地域の人とたくさん挨拶する場面が増え、さらに笑顔ですることができるようになりました。そのおかげで犬を飼っている人と仲良くなったり、しゃべれるようになりました。私は、挨拶はめんどくさいと思っていたけれど、人と関わる大事な手段だと思いました。これからは、笑顔で挨拶をするだけではなく、いろいろと追加し地域の人たちを笑顔にしたいです。

中2

▽僕は、最近ロードバイクに乗りはじめました。ロードバイクに乗っていると他のロードバイクに乗っている人とすれ違います。自転車なので、ほんの一瞬しか顔を合わせません。でも、ほとんどの人が挨拶してくれます。それに僕もこたえます。手で挨拶をしたりおじぎをしたり、時には声を出して挨拶してくれる人や「がんばって」と声を掛けてくれます。おそらく一度もしやべったことも顔を合わせたことがない人でも、そのたった一瞬の挨拶でも心が温かくなりました。これからもロードバイクに乗って、自分から挨拶ができるようなすてきな人になりたいです。

中3

▽近所に花に囲まれている家がある。そこにはおじいさんが住んでいたが、なかなか挨拶ができないでいた。ある日、いつものように登校していると、その家のまわりの花がふだんは閉じているのにとってもキレイに咲いていた。思わず食い入るように見ると、それに気づいたおじいさんに声をかけられた。「おはよう」初めて聞くその声はとっても温かかった。その日から大きな声でおじいさんに「おはよう！」と挨拶をしている。

中2



▽いつも朝、名前をつけて挨拶をしてくれる子がいます。挨拶は、されたらうれしいけれど名前をつけてもらったら、さらにうれしく感じました。朝行くのがめんどくさいなと思って、挨拶や友だちのおかげで来て良かったという気持ちになるので、挨拶は大切だなと思いました。

中2

▽私が学校に行くと、毎朝友だちのTちゃんが「おはよう」と挨拶をしてくれます。たったそれだけでさわやかな気持ちになります。小さなことだけれど、私にとっては大きな力になります。「おはよう」と言われると一日がんばれる気がします。「おはよう」は魔法の言葉です。たった一言でも、あたたかい気持ちになったり、元気がわいてきたりします。だから私も相手の一日を明るくできるような素敵な言葉をかけてあげたいです。

中1



中1

▽私は、小学6年生の冬から塾に通っています。最初は、誰とも話せずずっと一人でいました。でも、勇気を出して帰る時、近くの席の子に「ばいばい」と言ったら「ばいばい」と返してくれました。それから自信がついてきて、今ではたくさん挨拶をして年齢関係なく塾の中に多くの友だちができました。苦痛だった塾が、今では早く行きたくなるような場所になりました。これからも挨拶を通して人脈を広げていきたいです。

中2

▽僕が6年生の時、修学旅行で奈良と京都で観光客に挨拶をしました。すると、外国人の観光客が、挨拶を返してくれました。その挨拶で不安がなくなりました。挨拶は大事だと思いました。それから僕は、気持ちのいい挨拶ができるようになりました。

中1

▽いつも中学校へ行く通学路の横断歩道で交通安全の見守りをしているおじさんたちが、横断歩道を通る小学生や中学生に「おはよう」と声をかけていました。背の小さい小学生の子には、腰をかがめて、目線を同じぐらいにして挨拶をしていました。そして、私にも「おはよう」や「いつてらっしゃい」と声をかけてくれました。私は、いい気分で学校に通学できます。やっぱり挨拶をすることは、とてもいいことだと思つたし、挨拶をする時は目を合わせるともつといいと分かりました。私は、これまで挨拶を自分からするよりされたことの方が多かったので、これからは、自分から目を合わせて挨拶をしてみたいと思いました。

中1

☆家族っていいな

▽この夏休みに、家族で恵那市に温泉旅行へ行きました。最初は、クラスみんなはもつと遠い場所へ旅行をしているのに、私だけみんなもよく知っている場所なのは嫌だなと思っていました。しかし、行ってみると意外と知らない場所やものがあり、そこから得られた学びもあって、すごく楽しむことができました。なにより、家族みんなで同じ時間を過ごせたことがうれしかったです。私の家はほとんど家族旅行をしたことがなく、来年からは私も兄も忙しくなるので、とても貴重な旅行として、良い思い出になりました。計画してくれた両親には心から感謝したいです。

中2



中2

▽私の家族は、祖母と母と私と弟の四人です。母は、いつも私たちのために仕事をがんばってくれます。祖母は、母親役も手伝ってくれます。母にしかられた後、祖母は「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言ってくれます。弟は、けんかもするけど、遊び相手になってくれて心配もしてくれれます。いつも笑わせてくれるムードメーカーです。母は、ずっと一緒にいられないけど、話を聞いてくれ「ずっとずっと大好きだよ」と毎日言ってくれます。いろいろな家族のかたちがあるけれど、私は幸せだなと毎日感じます。

中1

▽私は、小学6年生の時「自分の部屋がほしい」と言っていました。でも親から「机を運ぶのが難しく時間がないので無理」と言われ、悲しい気持ちになりました。4週間くらいたった時のことです。私がクラブから帰って来ると、お父さんとお兄ちゃんが机を運んでくれて、部屋ができていました。それを見てすごくうれしい気持ちになり、お父さんを見ると汗をかいている姿から大変だったんだなと思いました。休みの日はいつも、そうじや家事をしていて時間がないのに、お母さんと話し合ってたくさん悩んで最後には私のことを考えてやってくれたことに今でも感謝しています。これから中学3年間、そして、高校・大学まで勉強して親に何か恩返しをできるようにがんばりたいと思います。

中1



中1

▽とても暑い日、父親へ日頃の感謝を表すために洗車を手伝いました。手伝うのは大変でしたが、普段仕事が忙しい父親のために体から流れ落ちる大量の汗を気にも止めず、夢我夢中で洗いました。その時、様子を見ていた妹がスポーツドリンクを片手にゆつくりと向こうの方から近づいて来ました。その小さく細いうでを私の胸元に届くように持ち上げ「お兄ちゃん、体大丈夫？無理はしないでね」と言いました。父親も喜び、妹の成長も感じられる出来事でした。

中2

▽私は、夏休みに学校の三者懇談に行き、主に進路についての話をしました。それまで、家でも進路の話をしていましたが、私はなんとなく行っていい高校の範囲があるのだと思い込んでいました。しかし、私の父は「本人の意志なら、私立でも公立でもどちらでも良い。自由に進路を選択してほしい」と言いました。私は、この言葉にとっても感動しました。もちろん両親にも私に行ってほしい高校があったり、今の学力で本当に私の目指す進路が実現するかどうか心配なところがあると思います。それでも、私の目指す進路を聞いて信じて応援してくれて嬉しかったです。これからは、その期待に応えられるように勉強に励み、進路実現に向けて努力していきたいと思っています。

中3

▽夏休み、電車で土岐市の夏祭りに行きました。帰りは、駅でお父さんとお母さんと待ち合わせして車で一緒に帰りました。駅裏の駐車場から出る時、料金所で前の車が動かず後ろに長い列ができていました。すると、前の車からお姉さんが降りてきて「すみません。万札しかないの一度下がってもらえませんか？」と頼んできました。すると、お父さんは後ろを見て「もう並んでるから無理だね」と言い、自分のお金を渡しました。お姉さんは「ありがとうございます」と何度もお礼を言っ出ていきました。その姿がすごくかっこよく見えました。僕もいつか困っている人を助けられる人になりたいと思いました。

中2

▽今年、50年ぶりに日本で万博が開催されました。そして、家族で一泊二日で行くことになりました。スムーズに行けるよう7日前予約や3日前予約がありますが、結果はすべてはずれでした。しかし、これまで頑張つて予約や準備をしてくれた父に感謝したいです。そのために存分に楽しんで行きたいです。

中2



中2

▽これは、母から聞いたお話です。母がスーパーに行ったら、飲み物コーナーでおばあさんが座りこんでいたそうです。母は「大丈夫ですか？なにかお手伝いできることはありませんか？」と声をかけたのです。おばあさんは、足が悪く、お茶のダンボールをとろうとしたら転んでしまったそうです。母は、おばあさんのカートにお茶のダンボールを入れ、おばあさんを支え、立てるようにサポートしました。それを聞いて私は「すごいな。咄嗟にそんなことができるなんて。もし私が母の立場だったら、きつと怖くて声をかけることできないだろうな」と思いました。母は「目の前で困っている人がいたら誰でも、咄嗟に体が動いちゃうよ」と言いました。私は、時々その言葉を思い出し、誰かが困っていたら声をかけるようにしています。これから、誰かが困っていたらすぐに声をかけられるよう心がけていきたいです。

中1

▽私のお母さんは、私が生まれた数年後に亡くなってしまいました。お母さんがいた頃の記憶があまりありません。それには生まれた時から父親がいません。それでも私を育ててくれているおばあちゃんといとこがいます。おばあちゃんは、昔も今も私を時には厳しく時には優しくしてくれて、学校であつたうれしかった事や嫌だったこともすべて聞いてくれます。いとこは、小さい時からいろんな所につれて行ってくれました。私は、いとこたちに言葉使いや勉強などいろんなことを教えてもらいました。今でもいろんな場所につれて行ってくれるし、私の話にたくさん笑ってくれます。私をこんなにも支えてくれたおばあちゃんやいとこたちをずっと大切にしていきたいし、今も一緒に暮らしているおばあちゃんには感謝しています。

中2

▽私は、いつも朝は機嫌が悪くなつてしまいます。どうしても眠くて布団から出たくないのですが、休日は8時ぐらいまで寝ています。平日は特にそうで、家族に強く当たつてしまうこともよくあります。なので、この前も母に暴言を吐いてしまいました。眠かったとか良いことが最近無いとか、自分勝手な理由でイライラしていて、後から申し訳なくなつて謝ろうとしたけど、時間がありませんでした。そのまま出発しようとした時、母が一言「いつてらっしゃい」と声をかけてくれました。私もいつものように「いつてきます」と返して家を出ました。あんなに悪いことを言ってしまったのにと反省しつつも、家族の愛情を感じた朝でした。

中1



中1

▽夏休みが始まってすぐに、体調が悪くなって熱をだした時に、お母さんは、ずっと近くにくれしました。自分の部屋で一人で寝ている時や、ご飯を食べる時など、常に隣にいてくれてすごく安心しました。かぜをひいて、ご飯を一人で食べなきゃいけないのかと落ち込んでいたけど、近くにいてくれてすごく嬉しかったです。だから私も、嬉しくなったり安心してもらえるようなことができるようにしたいです。

中1

▽私のちょっとしたいい話は、お母さんに褒めてもらったことです。私には三つ上のお姉ちゃんがいる、とても頭が良くいつもお母さんに褒められていました。それに比べて私は勉強が苦手で、テストの点数もよくないけど、私もお母さんに褒められたいと思い、勉強を頑張りテストを受けました。結果、過去最高の点数を出すことができ、お母さんに褒めてもらったことが、私の中で一番うれしかったことです。

中2

▽私が住んでいる町のごみ置き場には、よくカラスが来てごみを荒らしていきます。私の父と母は、それを見つけると他の家のごみでも手袋とごみ袋を持って片づけに行きます。父も母も「他の家のごみをさわるのはあまりいい気分はしない」と言っていますが、毎回片づけに行きます。別に見て見ぬふりをしてでもいいのに、それをしない父と母はすごいなと思います。私もいやなことから逃げず、周りの人のためになることをしていきたいです。

中2

▽僕は、今年受験生です。僕が行きたい高校に入学するには、かなりの学力が必要で、今のままではギリギリというラインだと思っています。でも、どうしてもやる気が出なくて、机にやっと向かってペンがなかなか進まなくて、ボートとしている時がとても多かったです。その時、母が部屋に入ってきて僕をとて怒りました。とても激しい怒りを感じ、僕は恐怖のあまり縮こまって小さい声で「ごめんなさい」と泣きそうになりました。謝っていました。すると母が「いっしょに頑張ろう」と言って勉強を見守ってくれました。その日をきっかけに勉強を頑張らなくてはと思うようになり、一人でもペンが進むようになりました。それを見た母は「えらい、さすが」と優しく褒めてくれました。とてもうれしくて泣きそうになりました。その日以来、今も継続して学習を頑張っています。

中3

▽僕は、ピアノを習っていて、合唱伴奏をするためのオーディションにチャレンジします。練習している時は必ず壁にぶつかります。そんな時に無理してできるようになるうとしている僕に母は「そんなんじや上手にならないから、一旦休んでからやったら」と言ってくれます。その言葉でさらに上手になって、結果、オーディションで選ばれました。僕は、あせると無理やりやるうとしてしまうから、母のように落ち着いて前向きに考えられる人になりたいと思いました。中1

▽私には2才年上の兄がいます。兄は、今年受験生で、塾の帰りが遅かったり、自習室で勉強したりするため、夏休みでもなかなか一緒に出かけることができません。私は、中学生になって初めての夏休みです。課題は、今までの3倍で、毎日「やり切れないのでは」と不安がよぎります。でも、課題に集中し、たくさんある塾の宿題から逃げずにやっている兄を見ると、私も頑張ろうと勇気がわいてきます。私も、兄のように誰かのためじゃなくて誰かを前向きにさせる人になりたいと思います。そのことを教えてくれた兄へ、いつもありがとう。勉強は大変だと思うけど、頑張つてね。



中1

中1

▽僕は、夏休みにお兄さんと一緒に夏祭りに行きました。屋台をまわったりして楽しんでいました。だけど、途中でゲリラ豪雨がおこり、とても強い雨が降ったため、一時的にコンビニで強い雨が止むまで待つていました。体が濡れてしまい「寒いな」と思って温かいものを買おうとした時に、お兄さんが僕の買おうとしていた温かい物を買ってくれました。お兄さんは何にも得をしないのに、みずから買ってくれてとても嬉しかったし、なにより、お兄さんがいて「とてもよかった」と思いました。そこから僕もお兄さんみたいなことがしたいと思いました。

中3

▽僕には2才下の弟がいます。ある日、弟が珍しくわらび餅を一人だけで食べきらなかった。いつもならひとパック全部を一人で食べてしまうのに、その日は違った。弟が僕の目を見て「全部食べたからお兄ちゃんが悲しくなっちゃうから残した」と言った。溢れるような笑顔の弟の顔を見ると、僕は心があたたまった。同時に弟が以前より頼もしく見えた。

中3

▽僕が体調を崩していた時に、家族が手厚くサポートしてくれました。食事は部屋まで弟が届けてくれました。風呂も弟と一緒に入ってくれました。僕は、弟のやさしさにとっても感動しました。いつも言うことを聞かない弟でも自分から行動してくれたのがとても嬉しかったです。

中2

▽私には3才年下の少し生意気な弟がいます。ちよつとした事ですぐ怒るし、ケンカになるのが日常茶飯事です。その時、私はすごくイライラするし、カッとなります。でも私は知っています。弟は学校で誰に対しても平等に優しく自然と周りに人が集まってくる子です。学校に馴染めなかった転校生の子に誰よりも先に話しかけ、仲よく遊んでいました。私は人を思い行動に移せるツンデレな弟の姉であることを誇りに思っています。もしかすると、いや、もしかしなくても弟は私の「可愛い弟」です。

中1



中1

▽私の一番下の妹は、今9ヶ月です。妹は「ぱぱ」や「まんま」などしかまだしゃべれません。ある日、いつものように姉妹三人で遊んでいたら「ねね」と言いました。真ん中の妹と私は、その言葉を聞いておどろいたけど、とても嬉しかったです。妹が成長しているということに私は本当に嬉しかったです。今日も妹たちは元気で可愛いです。これからどんな風に成長していくのか、どんなものが好きになるか楽しみです。私は幸せです。長女で嫌だなと思う時もあるけど、可愛くて大切な妹がいて良かったなと思います。

中1

▽僕は、英語のテストが苦手です。いつもなかなか点数が上がらず悩んでいました。夏休み中、勉強をしていると、兄が「宿題の調子はどう？」と声をかけてくれました。僕は、英語が伸びないやんでいることを伝えました。すると兄は、英語だけでなく使えるような問題集を自分の部屋から集めて持ってきてくれました。そして、英語の分からないところを丁寧に教えてくれました。僕は、とても嬉しかったし、応援してくれてるんだと思い勉強に対するモチベーションが上がりました。このまま受験に向けて苦手なことを克服して少しずつ積み重ねていきたいです。

中3

▽私には10才離れた弟がいます。私が熱を出して部屋で寝ていたら、部屋まで私の好きなりんごを持って来てくれました。お母さんに言われて持って来てくれたのだらうけれど、それがかわいくて嬉しかったです。りんごは弟といっしょに食べて、いろいろたくさんお話しました。

中2

▽私には弟がいます。ある日、宿題をしていると「勉強わからないから教えて」と言われました。私は、もう宿題が終わりそうだったので教えることにしました。最初は、あまり分かってくれなかつたりしたけれど、説明をするうちに分かってくれて、やっと問題を解くことができました。すると弟に「教えてくれてありがとう」と言われました。普段そういうことを言わないので「ありがとう」と言われてうれしかったです。そんな一言で温かい気持ちになれたので、私も「ありがとう」とってという言葉を大切にしていきたいなと思って思いました。

中2

▽私は、最近反抗期です。何かをお願いをされても言い返したり、怒ったりしてしまいます。すると姉が「しょうがないけど、傷つく人もいるから気をつけてね」と声をかけてくれました。その時から少しずつ気をつけるように心がけていますが、時々反抗期が出た時に、姉はすぐ怒るのではなく、私を受け入れて優しく教えてくれます。姉の言葉がとてもうれしく、私の姉でよかったと思いました。これからも私は気をつけて過ごしていきたいと思いました。

中2

▽私のおじいちゃんは、いつも「そう無理せんでね」と言ってくれます。おじいちゃんの言葉は、私のすべてを肯定してくれる感じがして、とても救われます。私は、今年受験生で、おじいちゃんは勉強に関してもそう言ってくれます。そんなおじいちゃんに感謝しながら頑張って3月にいい報告ができるようにしたいです。

中3

▽私が中学2年生の時、大好きだったおばあちゃんが亡くなりました。お葬式では親戚の人たちがたくさんいました。親戚の人たちと挨拶をしているとおばあちゃんのお姉さんに会いました。その時「お母さんと仲良くしてる？お母さんを大事にしてね」と言われました。私は、お母さんとけんかをする事が多かったので、その言葉が心に刺さりました。この言葉を今でもはつきりと覚えていて、これからもこの言葉を大事にして生活していきたいです。

中3



中3

▽私は、おばあちゃんと一緒に暮らしています。おばあちゃんは体調が悪くて、余命があと数ヶ月くらいと言われていて、私はそれを知りませんでした。なので、びっくりしました。けれど、体調が良くなってきて、もう少し生きられるようになりました。私はとても嬉しかったし、ほっとしました。残りの時間を大切にしておばあちゃんとたくさん話して楽しみたいです。

中1

▽おばあちゃんが畑で草とりをしていたので1時間手伝いました。手伝ったら、おばあちゃんの顔がニコニコしていました。すごく嬉しそうな顔をしていたので、本当にやって良かったと思いました。おばあちゃんに、カマの使い方とかを教えてもらったりして、ためになったと思います。手伝ったら五千円をもらえて嬉しかったので、また、おばあちゃんのお手伝いをしたいと思います。

中3

▽おばあちゃんとお昼ご飯を食べている時、私が少し疑問に思っていた何でも「いいよ」と言ってしまう人について話すと「その人は本当は嫌かもしれないのに何でも『いいよ』と言ってしまうのは、おばあちゃんはおかしいと思うよ。本当に嫌なことを『いや』って言える関係が一番いいよね。だから、Mちゃんもおばあちゃんに何か誘われた時は気を遣わずに、嫌なら『いや』と言ってくれると、おばあちゃんもつと仲良くなれた気がしてうれしいよ」と言ってくれました。私はその言葉がとても心に刺さりました。これからはおばあちゃんともつと仲良くできるように、こんな関係でいたいと思います。

中1

▽青森に住んでいた父方のおじいちゃんは、私の名前の漢字を考えてくれた人です。その時は、お腹の中にいたから「おじいちゃんは顔を見ることができなかったのか？」と両親に聞いてみると、「直接会うことはできなかったけれど、ビデオ通話で見せることはできたよ」と言われました。それを聞いて、今までつながっていなかったと思っていたおじいちゃんと自分とはつながっていたんだなと思ううれしくなりました。

中3



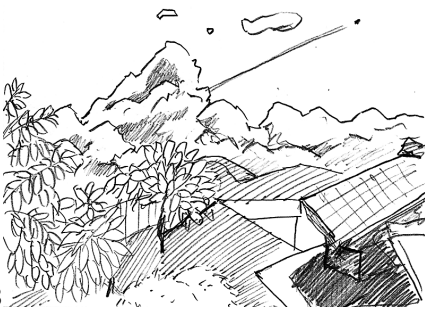
中3

▽この前、歯医者におじいちゃんと兄弟で行った時の話です。その時、歯医者に来ていた人が多く席が満席でした。私とおじいちゃんが席に座っていると、ご年配の方がいらつしやいました。私は席をゆずろうと思いましたが、なんて話かけたらいいかとまどっていました。すると、ななりに座っていたおじいちゃんがすぐに立ち、席をゆずっていました。それを見て自分が席をゆずれば良かったと後悔してしまいました。次にこのような場面になった時は、後悔しないように、すぐに席をゆずれるような人になりたいです。

中3

▽私は、夏休みに祖父の家へ行きました。家族で集まり、ご飯を食べに行きました。家の周辺を散歩していると、空に飛行機が飛んでいて飛行機雲が見えました。私は、思わず写真をとって、しばらく空を眺めていました。耳をすますと、葉と木があたる音が聞こえたり、セミの声が聞こえたりしました。自分の家にいるとついスマホをさわってしまう私ですが、この時は、空のきれいさ、セミの鳴き声、夏を感じることができました。その時、私はすごくきれいな心になった気がして「自然っていいな。家族で集まるっていいな」と思いました。家にいるだけでは気づけなかったいろいろなことに気づけた、私のちょっとしたいい話です。

中3



中3

☆友だちっていいな

▽私の誕生日の日のことです。その日はいつもどおり学校に登校しました。すると、みんな出会いがしらに「おめでとう」と声を掛けてくれました。私のもとに走ってきて言ってくれる人、隣のクラスから言ってくれる人、いろんな「おめでとう」を言ってくれました。その言葉を聞くたびに、私はポカポカとした気持ちになり、とても幸せでした。私は、こんなすてきな気持ちを忘れたくありません。だから、みんなの誕生日に絶対に忘れずに「おめでとう」と声を掛けていきたいです。

中3



▽私は、球技が苦手です。バレーの授業で少しでも上手になれるようにと家でも練習しましたがレシーブだけではどうしてもできませんでした。そんな時、友だちが練習に付き合ってくれて、たくさんアドバイスしてくれました。その子のおかげで、全くできなかったレシーブができるようになって、とてもうれしかったです。その子が教えてくれたおかげで、あんなにも苦手だったバレーが少し楽しくできるようになりました。努力すれば、苦手なものでも少しは楽しくできるようになると、その子との練習で知ることができました。これからも努力していきたいです。

中3



中3

▽体育の授業でバレーボールをしました。それぞれ4チームに分かれて試合をしました。私のチームは、なかなか上手にいかない時やミスをしてしまった時に、自然と「大丈夫だよ。誰だってミスはするからあまり気にしないで」というはげましの声や、応援する声が聞こえてきます。私も、失敗してしまった時に、この言葉をかけてもらい、すごく安心した気持ちになりました。誰かのミスを温かい言葉ではげまし合う姿を見ていると心がすごく温かくなるし、このチームで本当に良かったと思いました。ちょっとした言葉でも相手からすると、とてもはげまされる言葉だから、ほんの少しの思いやりがこんなにもたくさんの人の心をはげまし温ためることができたんだと思うと、とてもうれしい気持ちになりました。

中1



中1

▽友だちと夜遊んでいて走った時、スマートフォンを落としてしまいました。僕にとつてとても大切なもので、最初はもうどうすればよいかわからない状況でした。けれど、友だちが「自分も一緒に探すわ」「おれはライトを照らしておくね」と温かい言葉をかけてくれました。その後、みんなで協力して捜索し、スマートフォンを見つけることができました。本当に友だちの優しさと人を助ける行動に感動したし、このような友だちを手本にいろいろな場面で人を助けられる人間になりたいです。

中2

▽私は、クラスで級長をしています。でも、初めての級長なので、あまり仕事になれていなくてどうしたら良いのか分かりませんでした。級長は朝・夕の学活で代表してお話をするのですが、緊張してしまい、声があまり出せなくて話すことが少し苦手になってしまいました。私が落ち込んでいると、一緒に級長をしていたT君が「ちゃんと聞こえてたよ！自信持つて」と優しく言うてくれました。その言葉は、私にとつて心に響く言葉でした。「少しの言葉なのにこんなにうれしくなるんだ」と私はちよつと前向きになりました。私も彼のように落ちこんでいる人や、困っている人に優しく一言でも声をかけられるようになりたいなと思いました。

中2

▽僕は、体育祭の軍リーダーに立候補しました。軍リーダーは男女一人ずつで、男子は僕ともう一人の友だちが立候補しました。僕たちは、初めての軍リーダー立候補だったので、なにをするかを知ったのは軍リーダー決めの4日前でした。でも僕たち二人は体育祭でこのクラスを引っ張っていきたいという同じ気持ちでした。結局、僕は選挙で選ばれませんでした。でも先生は「選んでくれている人もいたよ」と声をかけてくれたし、友だちは「ナイスチャレシジ」とはげましてくれました。そして、選ばれた子に「おめでとう。がんばつてね」と話したら、自分の分まで頑張るよと言ってくれました。また、先生には種目リーダーというものを教えてもらい「チャレンジしてみなよ」と言ってくれました。友だち、先生、選挙を共にした子、僕は人に恵まれているなと改めて実感させてもらいました。みんな、本当にありがとう。

中1

▽私が、友だちと一緒に祭りに行った時の話です。祭りをたくさん楽しめるようにいろんな人を誘って行き、予定どおりにみんなと楽しく過ごしました。帰る時に、私だけ別のところに車があったので、みんなを送ろうとしたら、私が誘った一人の友だちが「じゃあ、私も同じ場所に迎えに来てもらうから一緒に行こう」と言ってくれました。私が、一人だったからか車の来るところを変更してくれました。その友だちには、感謝しかありません。

中1

▽私は、中学校へ自転車で通学しています。ある時、自転車が倒れてチェーンが外れてこげなくなっていました。すると、一緒にいた友だちが直すのを手伝ってくれました。そのおかげで無事にこげました。また、チェーンを直すのに手がよごれてしまったらティッシュをくれました。その友だちは、ちゃんと周りを見ていて人助けができるいい人だなと思いました。助けてくれたおかげで本当に助かりました。ありがとうございます。私も人が困っているのを見たら、すぐに助けて力になりたいなと思いました。また、助けてくれた子たちにもいつか恩返しをしたいです。

中1

▽私の飼っている猫は片目がありません。友だちにこの事を話してから家につれてきました。その友だちは「かわいい！」と言ってくれました。差別をしない友だちに私はうれしかったです。

中2



中2

▽私は、小学生の頃から人前で何か発表をすることが苦手でした。中学生になり一番不安だったことは「人前でちゃんと発表できるかな」と「先生に当てられたらどうしよう」ということでした。初めに自己紹介をすることになり、出来るのか不安でしたが、私が発表をすると、クラス全員がしっかり聞いてくれて、言葉がつまっても責めずに聞いてくれたので、とても安心して発表することが出来ました。今では、自分から挙手をして発表をすることができます。私は今、人前で発表することがあまり苦手だと思いません。それは、クラス全員が姿勢よく安心して発表できるように環境にしてくれているからです。なので、私は、これまでクラスの仲間がしてくれたことをして、安心して発表できる人が増えていってほしいと思いました。

中1

▽私は、小学2年生になる時に、転校しました。転校した後は「みんな元気かな」「覚えてくれているかな」と考えることが多くなりました。小学校を卒業するちよつと前の日でした。「幼稚園の同窓会に参加しませんか？」と、連絡が来たのは。私は、すぐに「参加したい！」と答えました。でも「私のことを覚えてくれているかな」という不安もありました。同窓会当日、私は不安がありながらも会場に着きました。入ってみると、なつかしい顔がたくさんあってうれしくなりました。そして、なんと相手から「もしかして〇〇ちゃん？久しぶり」と声をかけてもらえたんです。私は、それを聞いて「まだ覚えていてくれたんだ」という嬉しさと感動で、どうにかなりそうでした。そして、最後まで楽しんで帰りました。同窓会に行けて良かったです。

中1

▽ぼくは、お母さんから責任感が強いと言われます。ちょっとしたことでも考えこむ自分の性格から言われていると思っています。ある日の夜、おばあちゃんが亡くなりました。その時は声が出ず、家族にも自分の気持ちが明かせないでいました。でも、この気持ちをどうにかしたいと思い信用できて同じ経験のある友だちに明かしました。一番したかった恩返しについて言うと「恩はこれからも元気に生きる事！」と教えてくれました。これからも元気で過ごし、人を大切にすることに決めました。

中1

▽3月に小学校を卒業して、「中学校が楽しみ！」と思っていたけれど、入学が近づくにつれてだんだん不安がつるようになりました。「友だちできるかな」「勉強ついていけるかな」「先生は厳しいのかな」「部活の先輩は…」と考え始めたらしきりがありませんでした。ドキドキの入学式。緊張したけれど、心配していたほどではありませんでした。新しい友だちができたり、違うクラスにも友だちができました。先生も優しく授業も楽しい！「あの不安は何だったんだ」と思えるくらい毎日が楽しく、充実しています。今、中学生になることが不安な子がいたら声を大にして「中学校楽しいよ。大丈夫」と言ってあげたいです。



▽これは、ある店へご飯を食べに行った時の話です。注文したご飯が来たので、運んでくれた人に「ありがとうございます」と言おうと思つてその人の顔を見たら、見覚えのある顔の人でした。名札を見ると、私が小学生のときにペアでお世話になった人でした。話しかけようと思いつつも何年も経っているの、私のことを忘れてしまっているのではないかと思つたり、お仕事をされていたので、なかなか話しかけられませんでした。食べ終わつてレジに行ったら、その人がいました。覚えていてくれるか不安だったけれど、勇気を出して話しかけてみました。

「私は、小学校でお世話になった○○です。覚えていますか？」そして「何か見覚えがある。ペアの子だ」と笑顔で言ってくれました。私は、覚えていてくれて嬉しくなりました。とても緊張したけれど、「声をかけてよかったな」と思いました。今でも、思い出すと嬉しい気持ちになります。

▽夏休み中に遊ぶ予定だった子とけんかをしてしまいました。その子との予定はなくなつてもう関わることはないと思つていました。私からあやまるつもりがなかったからです。けれど、相手が先にあやまってくれました。けんかした相手にあやまれるってすごいな思いました。私もこれからは、友だちを大切に思い、自分からあやまれる人になりたいと思います。



中2

中2

中2

▽これは私が宿泊研修に行った時の話です。私は、食事係だったので、食事の準備をしていました。その時は、一人でみんなの分の食事を準備していたのですが、クラスメイトの女の子が「準備してくれてありがとう。気付かなくてごめんね。手伝うよ」と言って手伝ってくれて助かりました。私は、実際に手伝ってもらってとてもうれしかったので、クラスメイトの女の子のように、困っていたらすぐに助け、だれにでも優しくできるようになりたいです。

中2



中2

▽僕は、決して足は速くないです。体育大会練習の学年リレーで全力で走った結果、他の組の人に抜かされてしまいました。落ち込んでいる時に、自分よりも足が速い子に「大丈夫だから」と言われて心が軽くなりました。でもこのままじゃだめだから、本番まで練習してきました。そして本番を迎えました。走順は変わったけど、僕が他の組の子を抜かしたら、大丈夫と言ってくれた友だちに「ナイス」ととても褒められました。練習の成果が出たのも嬉しかったし、その友だちから認められたような感じがしたのも嬉しかったです。

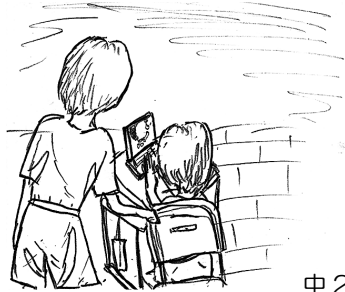
中2

▽私は「自分の声は少し変なのでは」とあまり好きではありませんでした。でもある日、友だちと話をしていたら友だちが一言「声めっちゃきれいで好き」と言ってくれました。その言葉で私はすごくうれしかったし、自分の声が好きになりました。

中2

▽僕は自分から相手に話しかけることが苦手で、初めは誰とも話せていませんでした。だけど、ある日勇気を出して、当時席が近かった人に話しかけました。初めは短かった話も時間を重ねていくうちに、だんだんと内容も深く時間もどんどんと長くなっていき、相手も喜んでくれ、僕はとても嬉しかったです。なので、これからも勇気を出し、いろいろな人たちに話しかけることを目標にして、頑張っていこうと思いました、勇気を作るきっかけとなってくれて、ありがとうございます。

中2



中2

▽私は、1年生の終わりから2年生の初めにかけて、学校に行くのが怖くて教室にも行けなかった時期がありました。でも、そんな時、私の相談をずっと聞いてくれた友だちが、連絡をくれたり、保健室や会議室にいた時には、迎えに来てくれたりして元気づけてくれました。そのおかげで私は今、楽しく学校生活を送れるようになりました。

中2

▽私は、相談されることはあるけど、相談することはほとんどありません。自分で何とかしようとすることが多いです。けれど、解決できずに困っていた時、友だちが話を聞いてくれました。話を聞いてもらい、気持ち が楽になり、協力するって大事、友だちって大事だと改めて感じました。私も困っている人がいたら、優しく少しづつ話を聞いてあげたいと思います。

中2

▽大雨が降った夕方、塾の帰り道に車の中からダブルレインボーを見つけました。車の中から思わず写真を撮りました。きれいな二つの虹が出ていることを友だちに教えたくて、画像を何人かの友だちに送りました。すぐに返信が来て「きれい」と言葉で送ってくれたり、違う場所から撮った虹の写真を送ってくれた友だちもいました。みんなで同じ空を見上げて、きれいな虹を共用できたことに、幸せを感じました。

中3

▽私は、男子からも女子からもいじられる側の人でした。中学1年生の時に「いじり」という「いじめ」とは少し違う、いじりが少しだけひどくなった時期がありました。いじられる側だったのでも、こういうのには慣れている自分もいて、うその笑顔でごまかして、生活していました。でも、信頼できる親友に感謝しています。自分よりも怒ってくれて、相手にもダメなことを言ってくれる親友です。親友のおかげで、ハッキリと言いたいことを言えるようになりました。

中3

▽僕は、中学1年生のはじめに転校してきました。すごく不安で、友だちや仲のいい子が出来るか心配だったけど、みんなが積極的に「どこから来たの?」「何のゲームが好きなの?」という質問をしてくれて、すごく元気いっぱい、心が温まるクラスだと思いました。そして、先生も最初は、ちょっと怖かったけど話してみると、すごく良い笑顔で良い人でした。そんなクラスは自分の新たな宝物と実感しました。

中1

▽私は5年生の時、漢検7級を取るため勉強していました。でも「検定」というのを私はどうすればいいのか、そもそもちろんと受けられるのかどうかさえ分からなくとも不安でした。その当時、仲がよかった友だちに「どうしよう。ちゃんと受けれるのかなあ。まちがえないかなあ」と自分の気持ちを打ちあげた時「大丈夫だって！〇〇ちゃんは頑張ったでしょ？そんなこと言わずに自信もって！」と言ってくれました。そう言われて私は、不安で恐かった気持ちが少し軽くなった気がして、前向きに考えて明るくなったと思います。そして本番当日、少し不安だったけれど、勇気を持って行うことができました。この日をきっかけに応援を受けることは、こんなにうれしく安心するんだと気づき、私も周りの人が悩んでいたら声をかけようと思いました。中1

▽ある日、教室でシャーペンをなくしてしまった友だちがいて、私も一緒に探してあげた。無事に見つかって、拾って渡してあげただけけど「ありがとう。助かった」と笑顔で言われた。その一言が、なんだか心に残った。次の日、その子が私のプリントをさりげなく拾ってくれた。「昨日のお札」と言われて少し照れくさかったけれど、心がほっこりした。これがきっかけで、その子とはいっきに仲が深まり、今では一緒に帰ったり学校内で笑い合う仲になった。ほんの少しの親切が、新しいつながりを生むこともあるんだなと思った。中学校では忙しいことも多いけど、これからも親切にしていきたいと思う。

中1



中1

▽僕には高校に通っている留学生の友だちHがいます。Hは、〇〇高校のバスケットとして全国でも活躍するようなプレイヤーです。僕が初めてHに会ったのは、小学6年生の時です。〇〇高校のバスケット部を好きだった僕は、試合でたくさん点を取るHを見てとてもかっこよく思いました。何度か試合を見に行くと、僕はHとしゃべってみたいと思いました。勇気を出して、試合が終わった後に苦手な英語で「ハロー」と話しかけてみると、優しい笑顔でしゃべってくれました。その後、試合を見に行く度に話すようになり、仲良くなっていきました。何度か一緒にバスケットをしたこともあります。僕とHは、日本人とナイジェリア人で話す言葉も違いますが、仲良くなるうという気持ちが強かったから友だちになりました。だから、僕は初対面の人に対してもフレンドリーに接していきたいです。

中2

▽体育体会で、僕は大縄の回し手をやりました。クラスみんな勝ちたい気持ちがいっぱいあるので昼休みに大縄の練習を何度もやりました。何十回と大縄を回すので段々大縄を回すのがキツイなあと思うはじめましたが、練習が終わった後に「いつも回し手ありがとう」などの声かけをみんながしてくれましたので頑張ろうと前向きな気持ちになりました。本番では、大縄の競技にみんなが団結して跳ぶことができました。結果は学年で1位で、大縄が連続で跳べた回数は全校で2位という結果でした。この結果を見て「あの時がんばって良かった」などの気持ちや、いつも声かけをしてくれたクラスの仲間に対しての感謝の気持ちでいっぱいになりました。

中2

▽自分は、合唱の指揮者をやらせてもらうことになりました。上手に振れるか、上手にできるかととても不安でした。その時、伴奏をする友だちが「よろしく。緊張するけど頑張ろう」と言ってくれました。自分はとてもうれしい気持ちになりました。これから全力で頑張ろうと思いました。

中2

▽私は昨年、合唱発表会の伴奏をつとめました。はじめは、歌っているみんなと合わせてひくのがとても難しく、他のクラスの子と比べて悲しくなったりもしました。すると、友だちはいつもはげましの言葉をかけてくれました。また「頑張れ」や「大丈夫」「いっしょに成功させよう」など言ってくれたので、その言葉を聞くだけで、悲しい気持ちちが吹き飛んで頑張ることができました。

中2

▽僕が友だちと通話している時「今回の单元むずかしいんだけどー」と話すと「教えてあげようか？」と、わざわざビデオ通話にきりかえて分からないところを理解するまで教えてくれました。また、その人がよく分からないところは、もう一人が教えてくれました。そのおかげで、テスト勉強が、はかどりました。友だちといっしょに学ぶことで、いつもよりも楽しく勉強をすることができました。ぼくは、友だちに仲良くしてもらっていて幸せです。他にも、ぼくに対してやさしく、楽しくいっしょに過ごしてくれるような人たちがいて、感謝しかないです。

中3

▽私が高校見学に行ったときの事です。私は、慣れない場所に緊張して
いました。移動や部活見学の時に一人で困っていると、高校生のお姉さん
が「どこに行きたい？私についてきてね」と優しく声をかけてくれました。
一人で不安だった私は、すごくうれしかったです。私も困っている人がい
たら、優しく声をかけられるような人になりたいと思いました。

中3



中3

▽私のクラスには、マリーゴールドとヘチマがあります。その植物たちは私の知らぬ間にすくす
くと育っていました。ある日、クラスメイトが土の乾きの程度を確認し、水をやっていました。
次の日、また別のクラスメイトが同じように乾いているのを確認して水をやってのを見まし
た。この植物たちは、みんなが土の乾きを確認してすぐ水をやってるからここまですくすくと育
ってきたんだなと思いました。

中2

▽学校で普通に授業をしていると、避難訓練の地震の放送が入りました。クラスのみんなは、あ
わてて机の下に入ってぎざぎざしていた時、普段は呼びかけをしないYさんが「静かにするよー」
と大きな声で呼びかけをしました。おかげで、避難訓練のタイムが、前回よりも早くなりました。
ばくもYさんのように、たくさん呼びかけをしたいです。

中1

☆部活・クラブ仲間とのきずな

▽私が中学校最後の試合の前日に、インスタで「よかったら応援してください」と書くと、40人くらいの人が「がんばれ」「○○ならできる！」などと応援してくれました。また、試合当日は引退した先輩が見に来てくださったたり、違う学校のチームの子も「お互い最後だし全力で頑張ろう」と、勇気の出る言葉をかけてくれてうれしかったです。自分がされてうれしかったから、他の友だちの試合で応援したら「ありがとう。がんばってくるね」と言われ、勇気づけることができたので、これからも友だちが頑張っていたら、応援したいと思いました。

中3

▽僕は、夏休みに学校へ部活に行きました。その日はとても暑くて、僕は熱中症になってしまいました。とても暑くて気持ち悪くて大変でした。そんな時、まわりの人が気づいてくれました。「だいじょうぶ?」「保健室の先生呼んでくる」などたくさんの声をかけてくれました。とてもうれしかったです。みんなが気づいてくれたことによつてぼくは助けられました。僕は、この時、みんなで支え合つて生活をしているということに気づきました。これからは、みんなで協力して生活をしたり、困っている人がいたら助けたりして生活をしていきたいです。

中1

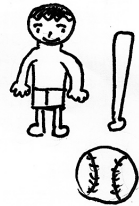
▽僕は、中学校最後の中体連で、勝てば全国だというところで負けてしまった。小学校5年生から休日はもちろん、平日や祝日もたくさん練習してきた。だからこそ、とても悔しかった。そんな時に同じチームの2年生の子が「いい試合だったよ。来年は絶対全国行くからね」と言ってくれた。僕は、全国行けなくて悔しいという思いよりも「こんな仲間と出会えてよかった」「これまでがんばってきたおかげでこんなに良い仲間に出会えた」という思いになっていた。

中3

▽僕は、野球をやっています。僕たちのチームは、ほとんど毎週AチームとBチームにふり分けられます。そして試合の前の週に背番号がAチームにだけ渡されますが、僕は半年間やっているのに背番号どころかAチームにすら上がれませんでした。しかし、僕は悔しいから練習しようとは思いませんでした。それから半年後、同じ学年の子が3人入って来ました。しかもその2週間後には3年生の試合がありました。僕は背番号がもらえず、2週間前に入って来た子の一人が背番号をもらいました。僕は、その時初めて悔しいと感じました。その日家に帰って悔しいという感情の他にその子に勝って背番号をもらいたいという感情が芽ばえました。そして素振りをやっているとお父さんが来て「今からがんばろう」と言ってくれました。この言葉のおかげで練習をするようになりました。これからAチームに上がるために努力します。

中1

▽僕は、4月から地元ではなく愛知の方で野球をやっています。小学生の時よりも練習もきつくなり、大変だけど頑張っています。毎週土曜日・日曜日は、朝から夕方までみっちり練習があります。お弁当はもちろん補食もいります。よく一人の力では、野球ができないことを知りました。朝5時に出て行くことも多く、妹はおばあちゃんの家に行きます。お父さんとお母さんは、野球に付いてきてくれるので、みんなが協力してくれています。とてもお金がいることも知りました。野球の試合に友だちや、おじいちゃんおばあちゃんも見に来てくれます。試合にも出られて少しだけ成長した僕の姿を見てもらえてうれしかったです。



中1

中1

▽僕は、野球部、野球クラブに所属しています。その野球クラブで3年生最後の大会がありました。その大会でなんと優勝することができました。優勝したこともうれしいですが、その大会で思ったことがありました。それは、仲間っていいなということです。仲間と喜び、仲間と泣く。これができるだけでも幸せなんだ、という当たり前のことでも、なかなか気づけないかもしれないことです。だけど僕は、気づくことができました。これからもこんな当たり前かもしれないけど大切なものを見つけていきたいです。

中1

▽僕は、野球をしている。夏の時期は、中体連の大会や大切な大会がある。ある日、僕は授業で足の骨を折ってしまった。僕はとっても悔しかった。骨折をすると、移動や授業をすることが大変だった。そこで、クラスメイトや友だち、先生がカバンや荷物を持ってくれたり、たくさん声をかけてくれたりしてくれたのだ。僕は、とってもうれしかった。今は感謝を伝えることしかできないけど、もし骨折が治ったら行動で恩返しをしていきたいし、困っている人を見かけた時には、たくさん助けしていきたい。そして、みんなに期待をされていると思うから、中体連や他の大会に出られるように治療やリハビリを頑張って、プレーや結果でも恩返しをしていきたい。

中3

▽僕は、小学校4年生から野球をやっています。中学校に入った時、高いレベルで野球をやってみたいと思い、硬式のチームに所属しました。中学2年生の頃、大会の背番号で一けたをもらいました。その時は、驚きと喜びでいっぱいでした。ですがある日、背番号が二けたになってしまった先輩が「一けたの背番号いいね」と言いに来ました。その時、すごく不安になり、責任感がとても増したようでした。大会当日、責任と緊張で体がなまりのように重く、全く動きませんでした。その自分の第一打席。あつという間に追い込まれてしまいました。その時、先輩がベンチから声をかけてくれました。緊張がその声かけによってほぐれ、その打席は打つことができ、試合も勝つことができました。高校生になったら、同じようになったり、逆の立場になることもあると思うけど、努力を続けたい。

中3

▽僕が6年生の時、清流駅伝の対一の勝負がありました。その勝負に勝った人は選手、負けた人は補欠です。僕の相手は、県大会で800m一位を取ったことがある人で、そこまで勝てる相手ではありません。勝負する距離は1500mで、いいスタートをきりました。でも、最終的に僕は2秒差で負けました。とてもくやしくて泣きぐずれました。すると、相手が「前よりもずっと速くなっていた。僕も負けると思った。でも、君のおかげで練習ができた。一緒に頑張ろう」と声をかけてくれました。僕も「そのライバルがいるから練習ができる。一人ではできない」そう気づかせてくれました。そのライバルと一緒に今も同じクラブで練習しています。

中1

▽私は、1年生の時に陸上クラブに入ってたけど、女子が少なく「やっていけるかな」と不安でした。また、体力が全然なかったのもつと不安になりました。クラブをやるにつれ、自分の体や気持ちがいっしょになくなり、家族に相談し、クラブを辞めることにしました。もつとみんなと頑張りがかったし、罪恶感でいっぱいでした。そのことをクラブをやっている子に話すと「クラブ出来ないのは悲しいけど、気にしないで大丈夫だよ」と言ってくれました。私は、安心して、モヤモヤが無くなってうれしかったです。クラブは辞めてしまったけど、陸上が好きという気持ちは変わらないので、これからは、自分が出来ることをやっていこうと思いました。

中2

▽僕は、中学で陸上をやっている。先輩との関係もいい感じにできて、それなりに楽しく練習してきた。そして中体連。僕は負けてしまったけど、仲の良かった先輩が全国を決めた。しかし結果は、予選敗退。とてもくやしそうにしているへこんでいた。どう声をかければいいか分らなかったけど、素直に自分の思った事を伝えた。「かつこよかった。そんなに悔しいと思えたって」とはそれほど本気になれてたってことだからそんな自分を誇りに思ってたほしい」そうやって伝えた。先輩は「ほんとにありがとう」と言ってくれた。いつも僕がへこんでた時に元気づけてくれたあの先輩が少しでも前を向けるようになってくれたらいいなと思った。

中2

▽僕は陸上部に所属しています。一カ月ほど前、コーチに「駅伝まで続けるか？」と問われました。僕は長距離なので、他の競技よりも普段は長くいます。僕も3年生の初めまでは駅伝は続ける予定でしたが、先生の勧めなどもあり、後期は生徒会長に立候補しようと考えています。そのため、駅伝と生徒会選挙、両立＋受験勉強ということができる自信がなく、とても悩んでいます。コーチは「やらないと後悔する」「君ならできる」と言います。自分は、やりたい気持ちはもちろんあるけど、やる事が多いとかかえこんでしまう性格のため、駅伝をやるとなった生活に耐えられる自信がありませんでした、これを話すと友だちや周りの人は「大丈夫」と言います。ただ、母だけは違いました。僕の性格をしつかり理解し、仕事で忙しい中、長時間相談ののってくれました。親はいつも一番僕を理解しているのだと実感し、とてもうれしくなりました。

中3

▽私は、小学生の時から陸上クラブに属しています。小6の時、肉離れになつてしまい一年走れず、中学の陸上クラブに入団してから、一年走れなかった事が原因で足を痛めやすくなり、体力も落ち、仲間はどうどんタイムを出しているのに自分は練習もまともにできず、小学生の頃のタイムも更新できませんでした。そんな日々が続いて、最近やっと大会でタイムをねらつて走れるようになりました。この前、小学校のクラブに練習に行くと、小学



中1

生の時ずつとお世話になつたコーチに会いました。コーチは私に「大会記録のびてたやん！焦らずこれからも自分のペースで頑張れ！」と言ってくれました。中学生になつて関わる機会が少なくても気にしてくれて嬉しかったし、その言葉にすごく支えられました。「支えてもらった分、記録で恩返しできるよう頑張ろう」その思いを忘れずにこれからも陸上を続けていきます。中1

▽仲間と一緒にソフトテニスの練習をしていました。サーブ練習をしていて、なかなかサーブが入らない小学生の子がいました。その子にサーブのコツを教えた。最初は入らなかったけど練習をするうちに入っていました。そして練習試合で、さっき教えた小学生の子がサーブエースをとりました。試合終了後、その子が「サーブを教えてくれたから、試合でサーブエースがとれたよ！」と言いに来てくれました。その時「この子に教えてあげられてよかった」と心から思いました。

中1

▽僕は、今年の七月にあつたソフトテニスの東濃大会に出ました。初戦の相手はそこまで実力がなく余裕で勝てる相手で、周りの応援してくれていた友だちやコーチからも「初戦は行ける」「大丈夫だ」と言われていました。しかし、油断していたせいかギリギリで負けてしまいました。僕は悔しくて悔しくて泣きそうでした。友だちも声をかけづらかったはずですが、しかし、友だちは、そんな僕に声をかけてくれました。そのおかげで今では高校でもソフトテニスをしたいと思っています。本当にありがとうございます。だから次は僕が声をかけていきたいです。

中3

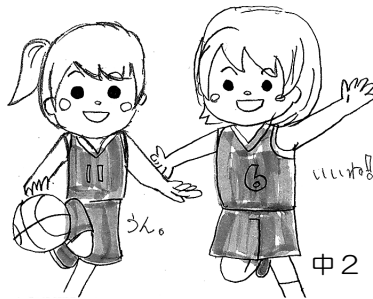
▽僕は、今年の夏、日韓青少年夏季スポーツ交流の中学男子バスケットボールの代表選手として韓国の人や他の競技の人と交流をしました。僕は、韓国人と交流する時、韓国語が全くわからなくて困っていました。でも、少しだけ英語がわかるのでなんとなく英語で話していました。そして、韓国人との合同練習は、少し不安でした。「言葉がわからないから上手くコミュニケーションがとれない」と思っていました。しかし、練習が始まると韓国の人は僕に身振り手振り精一杯に伝えようとしてくれました。僕は、その姿から言葉が違ってても諦めずにやることでいつか必ず思いや考えが伝わるということがわかりました。そこから僕も身振り手振りや英語で精一杯に盛り上げることを大切にしました。韓国の人みんなありがとうございます。

中3

▽僕は、バスケット部に所属している。中体連の試合で最後まで勝敗が分らないほどの接戦になったが借しくも負けてしまった。中学最後の試合だったから胸の奥が張り烈けそうな程悔しかった。でも、試合終了後、応援に来てくれた方々や他校の選手、後輩、親御さんたちの「よく頑張ったな」という声が耳に届き、会場全体が温かく盛り上がっているのを感じた。その優しさと熱気に胸が熱くなり、自然と涙がこぼれた。チームメイトと互いに励まし合いながら、悔しさも喜びも分かち合えたあの時間は、勝敗以上に大切な宝物だ。あの日の感動と温かさは、これからもずっと心の中に残り続ける。間違いなくあの空間は最高だった。

中3

▽私は、バスケットクラブに所属しています。この間、二日かけて一位から最下位までを決める公式の試合がありました。二日目の試合で私は家庭の事情で参加することができなくなっていました。そのことをチームメイトに伝えるのは、とても申し訳なかったし、嫌な顔をされると思いました。でも、みんなから返ってきた反応は「残念だけど後は任せろ！」という前向きで心強い返応で、心が少し軽くなれました。これからこういった場面がもし起こった時には、私がしてもらったように相手の気持ちを軽くできるような明るい返事をしたいです。



中2

中2

▽僕は、地域の楽器クラブに入っています。同じ年でほぼ同じ中学校の子とバンドを組んでやっています。普段キーボードの担当ですが、新しい曲を決める時に、決めた曲にキーボードがありませんでした。なので、違う楽器をするか新しくする曲を変えるかという二択になってしまいました。僕は、みんなのでせつかく長い時間考えて決めた曲だし、新しい楽器をしてみたいという気持ちの方が内心強くありました。でも僕は、じゃっかん内気なところがあるので、中々それを伝えることができませんでした。そんな時に、バンドをしている友だちが僕にどうしたいか聞いてくれて、思っていたことを伝えることができました。その友だちのおかげで新しい曲もできまし、新しい楽器もすることができたのでとてもうれしかったです。勇気ももらえてとても感謝しています。



中 1

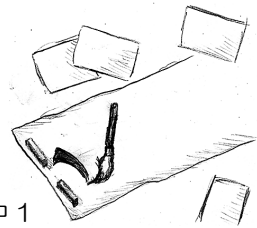
中 1

▽私が通う書道教室の先生は、私が試験に受かるように、いつも字の特徴や気をつけたら良いところを丁寧に教えてくれます。以前受けた試験は不合格で、先生は、どのように書けば良いか教えてくれたり、親も「ここを気を付ければいいんじゃない？」とアドバイスをくれました。先生と親の期待に応えるため、前の試験の時より練習し努力しました。その結果、試験に合格しました。「合格」と聞いた時は、達成感と嬉しさが同時にわいてきました。この結果は、先生と親のおかげです。これからも書道教室に毎週通って、集中して字を書いていきたいです。

中 3

▽私は、習いごとで書道を習っています。年に数回、展覧会というものがあります。今年の展覧会では、会場内でたくさんの人の前で作品を書くことになりました。当日、私はとても緊張していました。そんな時、私のサポートをしてくれるスタッフの先輩に「がんばってね」と声をかけてもらえました。その後のサポートもたくさんしてくれてうれしかったです。これからは、先輩のように相手のことを考え、自分から動けるようにしたいと思います。

中1



中1

▽僕は、サッカーのクラブチームに所属していて、ある時、試合がありました。自分はディフェンダーなので相手と体を張り合う場面がたくさんあります。だけど、その試合は運が悪く、相手に足を蹴られて、途中交代してしまいました。ハーフタイムに入った時、みんなが「お前の分もがんばるから」など心がほっとする言葉をあたえてくれました。その言葉を聞いて今、あの仲間たちがいなかったら、僕はサッカーを続けていられないんだと実感しました。

中2

▽バレーボールのクラブに入っている時、何回かやめようか迷っていると、家族が「自分がやめたかったらやめていいから自分で決めていいよ」と言ってくれました。中体連まで残り少しだったからがんばることにしたけど、中体連の日には「よくがんばったね」と言ってくれたからうれしかったです。

中3

▽習い事で小学校1年生の子にダンスを教えることがあり、ペアになった子にダンスを教えました。最初からゆっくりダンスを教えて、分からないところを聞きながら、練習をしていました。ペアの子が分からなくて止ってしまっても「もう一回やろ！」や「どこがわからなかった？」とやさしく声をかけながら練習をがんばりました。一つできるようになったら「すごい」と言ってあげてたくさん練習しました。一緒に練習をすると、私も分かっているところがあり、一緒にできるように練習しました。ペアの子ができるようになった時に、とても喜んで「ありがとう」と言ってくれました。私はそれを聞いて、とても嬉しくなりました。だれかに教えることは、自分のためにもなるし、相手が喜んでくれるのでとてもいいことだと思いました。

中1

▽私は、スピードスケートをしています。足をケガしてしまい、練習ができなかった期間がありました。今シーズンできないかもしれないと心のどこかで思い、気持ちがいじりました。でもそんな時、家族は「大丈夫」や「今までやってきたことは0にならないから、ゆっくりでいいから」とずっと私の心によりそってくれていました。不安と焦りしかなかった私にとって家族は何よりも効くものでした。家族がいて、ずっと背中をおしてくれたから私は今、氷の上で思いっきり戦うことができます。どんな人よりどんな薬やものより効く私の家族。改めてその時感じました。「家族っていいな」と。

中3

▽私は、新体操をやっています。団体の演技の中に個人Rという技があり、私はこの技がとても苦手です。でも一人ができないと技が成立しないからプレッシャーがとても大きくて、できないと先生におこられるばかりでした。メンタルが弱くなってやる気が起きない時に、同い年のSさんが「あきらめないで。絶対できるよ!」と声をかけてくれました。私は、この日から行動を見直して自分の動きを動画で撮って、なにがダメなのか研究をしたりして、前よりも意識がとても高まりました。試合では個人Rをしつかり成功させることができて、Sさんには感謝でいっぱいです。私も、自信がなくなっている子に自分の経験をいかして、少しでも自信をつけてあげられるように努力したいです。

中3

▽僕は、10年間水泳でがんばってきました。ついに今年、東海大会に行けることになり、とてもうれしく、それと同時に「県の代表」だからさらに頑張らないといけないと思い、今まで以上に練習に打ちこみました。ついに東海大会の日が来て、大会前ウォーミングアップなどをして備えていました。招集された時、顔なじみもなく少し怖さがあり、改めて自分は「県の代表」のプレッシャーを知り、緊張であまり動くことができませんでした。試合が始まり、思いっきり泳いだつもりでしたが、ベストは出せず最下位になっていました。帰りの車で父が「来られただけでもありがたいし、県の代表である前に人だから、緊張するのも無理はない。頑張れ」と言ってくれて、これからいろいろなことがあっても頑張っていきたいと思いました。

中3

▽今年の7月23日に夏コンがありました。みんなでこの日まで、金賞を取って県大会まで行くことを目標にし、自主練をいつも以上にたくさんやってきました。でも金賞には届かず銀賞でした。すごく悔しかったです。でも、先輩たちに教えてもらいながら練習したり、2年生だけで合奏した時の改善点とかを見つけたりしながら練習したりして、仲間ともっと絆を深めたり「頑張った！やってよかった」という達成感が味わえたのでよかったです。

中2



中2

▽私は、吹奏楽部に所属しています。吹奏楽部に入部してひとつ目標ができました。それは、ただ吹くだけでなく、綺麗な音で演奏することです。そのために、部活動やクラブの日にたくさん練習をしたり、家に楽器を持ち帰って真剣に音と向き合ったりして毎日練習しました。ある日クラブへ行って、いつも通り練習をして、あまりうまくいなくて、落ちこんでいました。音楽室を出ようとした時に、3年生の先輩方に「音綺麗だね」「もっと自信持ちなよ」と言われて、今まで頑張った練習した成果が出たんだなと思ひ、とてもうれしかったです。自分を勇気づけてくれた先輩方のように、私も誰かの背中をおすことができる人になりたいと思いました。

中1

▽私は、吹奏楽部に入っていて休日は技術室で練習をしているのですが、夏休み中にコンクールがあり、他の吹奏楽部員の親に会場まで車で送ってもらうことになりました。私は、わざわざ送ってくださる方に感謝を伝えるのは当たり前だと思い、車に乗る時は「お願いします」、降りる時は「ありがとうございます」と言いました。私が感謝をすると、送ってくださった方も、毎回「はい」や「いいえ」などと返事をしてくださいました。今まで、私の中で感謝はなにがなんでも伝えなければいけないという当たり前のものと認識していたのですが、このような出来事を通して感謝することは、した人もされた人もすごくいい気持ちになるかと改めて実感できました。だから私は、進んで感謝の気持ちを伝えるようにしています。

中2

▽私は、吹奏楽部に所属していて副部長をしています。練習中に「これやっというて」と言われたり、やらないといけないことがたくさんあったりしてとても大変だなと思っています。「やりたくない」「めんどくさい」と思うことも多く、副部長になんてなったんだろうと考えたこともあります。しかし、私よりももっと大変な仕事をしている部長や、同じ副部長のことを見ていると、私もがんばらないと思えるようになりました。そして、やらないといけないことをしたら、同じクラブのメンバーの人たちが「ありがとう」と言ってくれます。この言葉を聞いて、がんばってよかったと思えました。「ありがとう」と言うことは大切なんだなと思いました。あと少し頑張りたいです。

中3

▽私は、吹奏楽部で6月の終わりに合同バンドの演奏会がありました。その数カ月前くらいから合同練習が始まりました。私は、とても人見知りで友だちができるか不安でした。私は、誰とも話せずにいましたが、同じパートの1年生の子に勇気を出して話しかけたら、意外と意気投合して、他の合同練習の日にも話せて、友だちができてうれしかったです。本番の日も「上手だったよ」と言うと「ありがとう」と返してくれました。そして県大会の日、客席で座る席が近かったです。その時、目が合つて手を振ったら笑顔で手を振り返してくれました。私は、他校に友だちがいるとこんなうれしいんだと実感しました。来年も合同練習があると思うので、いろいろな子に声をかけて私みたいに思ってくれるように頑張つて友だちをつくりたいです。

中2

☆先生ありがとう

▽学校の教育相談があり、先生に「期末テストの結果はどうだ？」と言われた。私のテストの結果は、とても悪かった。テスト勉強を何時間もしたのに「とてもテストの結果が悪いです」そう言くと、先生は30分も相談にのってくれた。すると、最後に「別に点数はとらなくていいから、お前のペースでがんばれ」と言われてとてもうれしかった。一生懸命勉強してもなかなか結果につながらない私の気持ちを分かってくれてうれしかったです。

中1

▽僕が英語スピーチコンテストに応募した理由は二つあって、一つ目は、おもしろそうだったからです。英語が好きになれそうだし、いろんな人のスピーチを聞いたりして勉強になるからです。二つ目は、先生が薦めてくれたからです。先生に「やってみたいんですけど」と言ったら大喜びしていたし、練習をする時もA L Tの先生や英語担当の先生などが、ぼくのスピーチに対してアドバイスをしてくれたり、発音や重要などところなどを教えてくれて、細かい身振り手振りや間のとり方の指導をしてくれました。各先生たちのスケジュールに合わせて夏休みの約7日間、僕も必死に特訓しました。さらに、家族旅行の時も原稿をはだ身はなさず、持っていました。そして当日、大勢の人がいて緊張するなか、今まで練習してきたことをすべて出し切りました。この経験ができたのは先生たちのおかげです。

中1

▽「ねえ、みんな、先生の誕生日を祝おうよ」僕が呼びかけると、仲間も「いいね。やろうよ」となって担任のK先生の誕生日を祝うことが決まりました。先生の誕生日、その日は自習の時間があり先生が教室を離れると、すぐに黒板にみんなが絵を書きはじめました。すると、Rさんが「一人一人メッセージを書いてもいいんじゃない？」と提案しました。そして、一人ひとり先生へのメッセージを書きました。K先生が、教室に帰ってきました。多少バラバラだったかもしれないけれど「K先生誕生日おめでとう」とみんなで言いました。先生は、とても喜んでいました。思いつきでやったけれど、結果的に先生が喜んでくれてよかったです。

中2

☆地域のひとのつながり

▽学校帰り、玄関に入ろうとしたところで、近所の人と出会いました。その人は、私が小学1年生のころから関わりがあつて、たまにお家におじやまさせていただいた方でした。小学6年生あたりからあまり会わなくなつていたので久々に話せてうれしかったし、相手の方も笑顔でお話をしてくれて温かな空気でお話ができました。久々に会ったからか「大きくなったね」とうれしそうに言ってくれたことが印象に残っています。

中1



中1

▽少し前、僕が陸上の練習をしていた時、うっかり転んでしまい結構な血が出てしまいました。「いたいな」と思っていると、たまたま畑仕事をしていた近所のおじいちゃんとおばあちゃんが「大丈夫か」と声をかけてくれて急いで家に帰って救急セットを持ってきてくれました。とつてもうれしい気分になり、本当にこの人たちは親切でいい人だなと改めて思いました。別に近所なだけでこれまでもそんなに関わることもなかったのに、こんなことまでしてくれるこの人たちに、僕は本当に憧れて将来はこんな風に人にとつても優しくしたり、みんなから信頼される人になりたいなと思えました。本当にありがとうございました。

中2

▽ある日、バス停でバスを待っていました。あと5分でバスが来るかなと思っていた時、同じバスに乗る70歳ぐらいの女性が歩いてきました。「こんにちは」と挨拶をすると、その方も笑顔で返してくれました。そこから5分くらい自分が住んでいる町について、家族についてなどさまざまな話をしました。私が受験生だと言うと「頑張つてね」と応援をしてくれてうれしかったです。いつもならつまらない「5分の待ち時間」だけど、この日は「幸せな5分の待ち時間」になりました。田舎っていいな。地域のつながりっていいなと改めて思いました。

中3

▽夏まつりに行った時、盆おどりが行われていました。私はおどりが分からないので、外から見ていると、おどっているおばさまがさそってくれました。それだけでなく、やさしくおどりを私と友だちに教えてくれました。地域の方とのつながりを大切にしたいと思いました。

中3

▽私は、帰りによく通る近道があります。そこによくいるおばあさんに会うといつも挨拶をしました。ある時、友だちとその近くで待ち合わせをしていると、そのおばあさんが話しかけてくれました。私は、話すのがあまり得意ではないのですが、おばあさんの口調がやさしく友だちが来るまで楽しくお話をしました。地域の人とつながる機会はあまりないように思っている人が多いけど、挨拶など小さなことを積み重ねれば、人と人はつながれることがわかりました。今でもそのおばあさんに会うとお話をしています。

中3

▽私の家の近くに古びたお米屋さんがあります。そこは近所の人が営んでいて、店の前に自販機があるので私もよく行くのですが、会う度にこにこしながら話しかけてくれたり、少し期間が空くと「大きくなったね」とよく言ってくれて、とても嬉しく温かく感じます。最近はずいぶんあまり行けてないけど、また会えたら最近あったこととかをたくさん話せたらいいなと思います。加えて、私の家の近所の人たちは「おかえり」などとたくさん挨拶をしてくれます。それが私にとって本当にうれしいことです。だから私は、近所の人が好きだし、この町のことも好きです。

中2

▽私は、少し前に家の引っ越しをしました。今までは、マンションに住んでいたということもあり、近所の人との関わりが深く、あまり引っ越したくないなと思っていました。でも、母は私と妹を一人で育てながら新しい家を建てるために仕事終わりに毎日遅くまで計画を立て、とても頑張っていました。だから、ちよつと嫌だなという気持ちを出さずにいました。でも、引っ越してから近所のおじさんが毎朝「おはよう。今日もがんばれよ」と言ってくれて、最近ではすれ違ったら「かぼちゃとスイカできたよ。あとで持っていくね」と食べ物も嫌な顔もせずくれます。仲良くなるうちにだんだん今の家も環境も大好きになりました。だから、いつも大変だけど私たちのために行動してくれる母にも、毎日話しかけてくれるおじいさんに感謝してこれからも楽しく生活していきたいです。

中3

▽近所の人に野菜をおすそ分けしたら、僕の大好きなスイカをおすそ分けしてくれた。「ありがとうございます」とお礼を言ったら「また持ってくるね」と言ってもらい温かい気持ちになった。これからも近所の方とのつながりを大切にしたいと思った。

中2

▽宿泊研修の日、通学バスを待っている時、忘れ物に気がきました。家に戻る時間もなく焦っていると、近所の友だちのお母さんが電話を貸してくれました。そのお母さんは、家まで送ってくれるだけでなく、学校まで送ってくれました。僕は、地域の人たちの温かさにふれとてもうれしい気持ちになりました。これから支えてくれる人たちに感謝し、だれかを支えられるようになりたいと思いました。

中2

▽私は、休日によく近所の人に会うので話しています。でも、私は、話すことが得意ではなく、すぐ会話がおわってしまい気まずくなってしまう。それでも最近では、友だちと話すようになったこともあり、1年生のころよりたくさん話せるようになりました。まだ、あまり長くは話せませんが、毎朝「おはようございます」と挨拶を交わしてきたので、話すことに慣れました。地域の方との関わりはとても大切と改めて実感します。これから自分から話しかけられるように頑張りたいです。

中2



中2

▽僕が住んでいる地域に、最近新しいカフェがオープンしました。僕の母は、実家が農家であることから周辺のお店に作った野菜たちを置いて収益を得ています。もちろん、その新しいカフェも例外ではなく野菜を置かせてもらい販売しています。ある日、僕が水泳の朝練が終わった後、そのお店に野菜を置きにいく手伝いをしました。練習で疲れてはいましたが、それでも一生懸命お店の中に運びました。僕自身初めて入ったので、どんな人が店主なんだろうと気になっていました。一通り運んでから店内で親と一緒に店主と話していると「朝から水泳やって手伝いもして、お疲れ様」と言ってスムージーを渡してくれました。その時、僕は田舎ならではの近所との関わり合いを感じました。都会なら一生感じないと思う人との距離感。田舎ならではの魅力をこれからも守って、そして引き継いでいきたいと思っています。

中3

▽僕は、野球部に所属しているため、夏休み中いつも家の庭で練習をしています。すると、お隣さんが「いつも頑張っているね」とお菓子やシャーベットをくれました。僕の練習を見てくれているんだなと思い、もっと頑張ろうと思うようになりました。しかも、お隣さんは犬を飼っていてしっぽを振りながら吠えてくれます。朝に来るのでなんだか元気がわきます。学校に行くのは疲れるけれど、お隣さんや犬のおかげで疲れも吹っ飛びます。僕は、家族はもちろん、周りの人に支えられて生きているのだと実感します。これからも、野球を頑張るので応援してください。

中1

★ボランティア

▽私が夏休みにボランティアに行った時の話です。お祭りのお手伝いをするという仕事で『しゃてき』を任されたのですが、当てたおもちゃを袋に入れて子どもたちに渡すと、とても素敵な笑顔で「ありがとうございます」と言ってくれたので、とても心が温かくなり、ボランティアの仕事をしてよかったなと思いました。私も、笑顔でたくさんお礼をして、この思いをつないでいきたいです。



中2

中2

▽私は少し前、図書館で読み聞かせボランティアをした。0〜2才くらいの小さな子たちとお母さんやお父さんたちが来る読み聞かせだ。図書館で働いているお姉さんのアドバイスで、一緒に参加した友だちのYちゃんと読み聞かせの練習をした。読み聞かせは、ただ文を読みページをめくるだけではない。相手をひきつけるように、しっかりと聞き手に伝えることが大切なのだ。本番。とても緊張した。私は5人中5番目。小さい子は、まだうまく話せない。けれど、私が読んでいる時、ページをめくる時「あーあー」とか「ぶーぶー」と反応してくれた。どんなことを言っているのかはよく分からないけれど、反応してくれてうれしかった。読み聞かせは、こんなにうれしい気持ちになれることを改めて知ることができた。

中1



中1

▽私は、夏休みに地域の祭りのボランティアに行きました。屋台のお手伝いをしていると、祭りの主催者の方に「今日はボランティアに来てくれて本当にありがとうございます。すごく助かりました」と言っていたときとても嬉しかったし、心が温まりました。ボランティアをやり終わった時「疲れたな」と思っていたけど、感謝の言葉をいただいて「やって良かったです」と思いました。そして、その時に感謝の言葉の大切さや偉大さを感じました。なので、今、親に感謝が伝えられてないから、親だけではないけど、身の回りの人にあらためて感謝を伝えたいです。

中1



中1

▽私は学校が嫌いです。行きたくもない場所だった学校が、少し楽しくなったことがありました。私が登校をしている時にボランティアの人たちが挨拶をしていて、その中には「学校頑張つて」などの応援のようなことを言う人もいました。私はその人に挨拶をした時に「友だちと学校楽しんでね」と言われました。この言葉で私は「学校には仲の良い友だちがいるんだ」と思い、少しだけ楽しみが増えました。学校に行ってみれば嫌なことしかないと思っていたけど、楽しいことだってあると思い、自分のモチベーションが高くなることにもつながりました。今では「学校が好き」まではいかないけど「嫌だ、行きたくない」とは思わなくなりました。自分もボランティアとかして、周りの人を元気づけられるような言葉かけをしたいと思いました。

中3

なうれしい出来事

▽友だち四人と七夕祭りに行った時、途中で雨が降りました。私と友だちは傘を持っていません。でも、友だちがキッチンカーに食べ物を買いに雨の中、列に並びました。すると、二人のお姉さんが友だちを傘に入れて一緒に並んでいました。友だちに「知っている人？」と聞くと「知らない人」と言いました。私は、二人のお姉さんは、かつこいいなと思いました。知らない人同士なのにお姉さんたちは、友だちを傘に入れて、とても思いやりのある優しい人たちだなと思いました。私も、お姉さんたちのように、思いやりのある人になりたいです。

中1

▽僕は、友だちと瑞浪駅の祭りに行きました。キッチンカーにある食べ物を見て、どれにしようかと考えながら見ていました。そして、かき氷を買って、友だちと食べていました。すると、おばあさんが「ご一緒してもいいかい？」と聞いてきたので、僕と友だちは「いいですよ」と言いました。おばあさんは隣に座り、祭りについて話をしました。僕たちが場所を離れる時に、おばあさんは、「こんなおばあさんとお話をしてくれてありがとう」と感謝され、お札に持っていたベビーカーをくれました。僕たちも「ありがとう」と言いました。お話をしたくらいで知らない僕たちにベビーカーをくれたので、とてもうれしくなりました。親切にするっていいなと思いました。これが僕のいいお話です。

中1

▽私と友だちが瑞浪の七夕祭りの行く途中で、雨が少し降ってきました。でも、友だちの家に戻るには結講時間がかかるので少し困っていました。その時、知らないおばあさんに「雨が降っているから傘を貸してあげようか？」と優しく話かけられました。「いいんですか？ありがとうございます」と言って借りました。「帰り道の途中に玄関に置いていいからね」と言われて「はい」と答えました。祭り中は人が多く、雨も降りすぎて、花火を見るか迷っていました。だけど、最後ちゃんと花火が見られました。帰り道の途中に、傘をおばあさん家の玄関に置いて私たちは、ちゃんとお礼を言えて、いい思い出の夏祭りになりました。

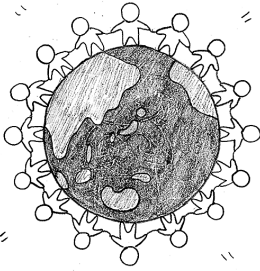
中2



中2

▽私が小学1年生のころ、地域のお祭りで、ボールのさし込み口が開いていることに気づかず歩いていて、けがをしてしまったことがあった。そんな時、家が近所で仲よくしていた小学6年生のKちゃんと、小学5年生のKちゃんのお父さんが、家まで走って車をとってきてくれて、私を乗せて私の家まで送ってくれた。私も、困っている人を見かけてすぐに行動できる人になりたいと思った。

中1



中1

▽今年も瑞浪市の夏祭りに友だちと行きました。屋台で遊んだりキッチンカーでご飯を食べたりして、花火が上がる時間がせまってきたので花火が見える場所に行き、上がるのを待っていました。その時、自分のさいふを無くしたことに気づき、回った場所全部を見たけれど、さいふは見つからず「もうだれかに取られたのかな」と思っただけで花火を観て悲しく家に帰りました。一週間経ったところ電話がかかって来て、なんだろうと思っただけで「先日話してくれたさいふが見つかりました」と連絡がきました。お金もカードも全部あり、瑞浪市にこない人がいるんだと心が温かくなりました。

中2

▽夏祭りに行つて、いろいろなものを食べていたらゴミで手がふさがつてしまいました。ゴミ袋がなくて困っていたら、冷凍パインを売っていたお兄さんが「よかったらゴミもらいますよ」と言ってくれました。ゴミを受け取ってくれた代わりにパイナップルを二本買いました。たった数分の出来事だけど、お兄さんの優しさとパイナップルの甘さは忘れられません。

中3

▽僕は、家族旅行で海へ行きました。そこにはゴミがまったくありませんでした。ゴミは持ち帰れという看板があつたわけでもありません。僕はこれを見て「こういう人たちだけの世界なら地球環境が悪くならないのに」と思いました。これからは、少しでもゴミを減らしたり、再利用したりしようということを改めて感じさせられました。

中2

▽私は、夏休みに飛行機を利用して、姉と母と旅行に行きました。飛行機の座席が母とは遠く、降りる時に、自分より後ろの席に座っていた人が次々に出てきて、姉と二人でなかなか降りれず迷っていました。すると、一人の方が足を止めて「先に降りますか？」と声をかけてくれました。おかげで自分たちは降りることができました。その人のような知らない人にも親切にすること、小さなことでも気にして声をかけることは、自分がされてうれしかったので、次は自分が他の人にその気遣いができるようにしたいと思います。

中3

▽私は、温泉に行った時、ちよつといいなと思ったことがありました。それは、髪をかわかしていた時、一人のおばあさんがそつと近くに来て「お掃除するね」と言つて、みんなの目の前の台の上に落ちていたたくさんの髪の毛を全てきれいに取ってくれました。私は急に「ありがとうございます」という言葉が出ました。すると、そのおばあさんは「みんなきれいで使いやすい方がいいよね」と言つて、その場から姿を消しました。私は、普段清掃員の人がかきれいにしてくれるから、自分のところだけきれいにすればいいと思つていたけど、これからは、あのおばあさんのように、周りにも気を遣つて、みんなが過ごしやすい環境にしていきたいです。

中2

▽お年寄りの人に席をゆずったら、「あなたの優しさが、今日一番のプレゼント」と言われた。なんだか一日中、気分がよかった。

中2

▽旅行で香港に行った時、バスに乗った時の出来事です。車内は混んでいて、僕は立ったまま揺れに耐えていました。席はすべて埋まっているように見えて「ここでは立っていくしかないな」と思っていました、すると現地の人が僕に声をかけてくれ「あそこ空いてるよ」と英語まじりで指さして教えてくれたのです。見ると、奥のほうに一つだけ席がありました。僕は、おかげで座ることができ「Thank you」と伝えると、相手はにっこり笑ってくれました。言葉が通じなくても、その親切さはしっかり伝わって心が温くなりました。言葉が通じない人だと分かっているのも、親切に声をかけてくれて僕はカッコイイと思いました。

中3

▽僕が京都へ旅行に行つてホテルに泊まっていた時のことです。エレベーターに乗って使い方がわからなくて困っていたら、一緒に乗っていた外国人の人が英語で教えてくれました。言っていることは全部は分からなかったけど、少しの会話やお礼ができました。言語が違っても会話を楽しむことができるのを実感できて、なんかうれしく思いました。国が違っても仲良くできたから、これからもっと英語を話せるようになりたいと思いました。

中3

▽駅の切符売り場に並んでいて、自分の前にいた人が切符を忘れていたので追いかけました。「忘れてますよ」と声をかけると「ありがとうございます」と言ってくれました。勇気を出して声をかけてよかったなと思いました。私も感謝することを大切にしたいです。

中2

▽自分は、夏休みに毎朝ランニングをしていました。理由は体力をつけるためです。でもそれがきつくて、いつも大体4キロ前後走ってもなかなか体力がつかなくて、途中何のために走っているんだろうなと思ってしまう時が何度もありました。でも、何かしらは成長しているのかと考えて、毎日続けていきました。親に「やめたい」と言っても「やったほうが後が楽になるよ」って言われたのでやっているけど、タイムも変わらなくてどうしたらいいのか分からないままでした。でも、いつも走っていると、「がんばれ」などと言ってくれる人がいてその言葉でやる気が出たりする時が何度もありました。だから、自分は走りたくないけど、毎日努力していきたいし、自分の努力は必ず誰かに見られているんだなと思いました。これからもやる気を出して継続させていきたいです。

中3

▽自転車に乗って登校していた時、草むらで隠れた段差につまずいて転んでしまいました。大きなけがはなかったものの動けずにいると、通りかかった車が止まり、運転していた方がすぐに駆け寄って「大丈夫？」と声をかけてくれました。荷物を拾ってくれたり自転車を直すのを手伝ってくれて、安心して学校に登校することができました。見ず知らずの人が当たり前のように助けてくれる、この優しさに胸が温かくなり、瑞浪の町の温かさを改めて感じた出来事でした。また登校道路をいつもきれいに草刈りをしてくださるM会社さん、本当にありがとうございます。

中2

▽友だちと自転車で遊びに行った時に、横断歩道で止まっていたら、後ろで友だちが転んでしまい、はまって抜け出せなくなりました。どうしたらいいか分からず困っていると、横の道路で走っていた車の人が止まって「だいじょうぶですか？」と二、三人ほどの人が助けに来てくれました。その人たちは、助ける時にたくさんの優しい言葉をかけてくださいました。僕は、わざわざ車を止めてまで助けに来てくれて本当にやさしいなと思いました。もし、助けに来てくれなかったら僕はとまどっていたと思います。なので、僕もこのやさしい人たちのように周りで困っている人を見かけたら「だいじょうぶ？」と声をかけて助けてあげたいと思いました。

中3

▽私の夢は歌手です。小さなころからずっとこの夢を追いかけいています。でも実際「叶うかどうかなんてわからない」と6年生になってから思っていました。でも最近、そんな思いが変わる出来事がありました。なんと、のど自漫に出ることができたのです。私は、不安な気持ちでいっぱいだったけれど、歌い終わることができました。結果は思うような結果ではありませんでした。でも、家族や友だち、そして地域の人まで「テレビ見たよ。すごかったね!」と言ってくれました。中には「夢に向かって走っていてすごい!」「歌声に元気をもらえたよ。これからがんばって」と言ってくれた人もいました。その言葉で、私は変われました。私の歌声が届いている人があることを知りうれしくなりました。これからも歌い続けて、みんなに元気になってもらえるような歌手を目指します。

中1

▽私の家の近くには、おばあちゃんと年をとった犬がいます。ある日、いつもどおり塾に行こうとしたら、おばあちゃんの家から弱った鳴き声がありました。急いで駆け寄ると、雨に打たれ横たわっている犬がいました。私は、家から水を持って来て犬に飲ませ、ずつとなでました。少し落ちついて自力で立てるようになりました。家のインターホンを何回も押しましたが出なかったのので近くの病院の人に伝えると、飼い主が来るまで待つていてくれました。数日後、妹と外を歩いているとおばあちゃんとあの犬が元気にさんぽをしていたので、少しいいことをしたなと思いました。近所の人に犬のことを聞くと、もうおばあちゃんでパニックになることがあるらしいです。これから少しでも人の役に立てる人になりたいです。

中2

▽お姉ちゃんと買い物している時、おばあちゃんがずっと歩き回っていて、何か探して疲れているようだったので、お姉ちゃんがおばあちゃんに声をかけました。おばあちゃんは、えんどう豆を探していたので一緒に探してあげたら「ありがとう」と言われ、何だか心がほっこりしました。人助けをするのは初めてじゃないけど、助けるたびに「ありがとう」と言われると、すごくうれししいし、相手も自分も良い気持ちになるから、もっと多くの人を助けたいなと思いました。だから、人が困っていたらすぐに助けてあげたいなと思ったし、自分が困っていて助けてもらった時には感謝の言葉が言えるようにしたいです。



中3

▽ある日、下校中にさいふが落ちているのを見つけました。ぼくは、交番に届けるためにさいふを捨てて家に持って行きました、お母さんに見せたら「この地区の人だよ」と言って交番へ持っていくはず、そのさいふの持ち主の人へ電話し持っていくました。さいふを渡したら「ありがとう。本当にありがとう」と言ってもらい、すごくうれしい気持ちとなつて「届けてよかったな」と思ったし、持ち主のところにさいふを返せてほっとしました。

中1

▽僕は、今年中学生になり勉強に熱く燃えています。ですが最初「勉強なんてめんどくさい。やりたくない」と思い勉強をやらない日々が続いていきました。ついには両親にも「勉強をしない」と言われ、今までの自分が情けないと思い目になみだが浮かびました。とある日、僕が好きなバンドの曲を聞いていると「誰かに何て言われようと、君はそのままがいい」このフレーズに背中を押されました。これが今、僕が勉強に熱く燃えている理由です。

中1

▽私は、この前、誕生日でした。友だちや家族から「誕生日おめでとう。いい一日にしてね」と言ってもらえました。私の誕生日を知らなかった人も「おめでとう」と言ってくれました。それだけでも嬉しかったのに、「いい一日にしてね」と私のことを思ってくれている一言があるだけで、とてもHappyでした。私も友だちや家族の誕生日をしつかりお祝いしたいです。

中2



中2

▽私は、友だちと遊んでいて、休憩がてらに公園に寄ろうという話になりました。公園でブランコに二人で座っていると、幼稚園生ぐらいの年の女の子が一人で遊んでいたのを見つけたので、声をかけて三人で少しの間だけ遊んでいました。その女の子の近くに親御さんの荷物があったので見張りながらも遊んでいたら、女の子のお母さんが私のところに来て「本当にありがとうございます。○○ちゃんも言って」と言って、女の子も「ありがとう！」と伝えてくれました。遊びたくて遊んだだけだけど、そんなに感謝してもらえたからすごくいい気分になりました。自分は、感謝される人になりたいし、助けてもらった時には、しっかりと感謝を伝えられる人になりたいと思いました。



中2

中2

▽前に通学路のごみ捨て場にカラスがいました。かごのすき間からごみ袋に穴を開けてごみを道路に散らかしていました。私は、カラスが怖くて何もする事ができませんでした。そう思っ走りすぎようとした時に、近所のお父さんがごみ捨て場に向かって走ってカラスを追いはらってくれました。そして、カラスが逃げた後にカラスが散らかしたごみを拾って、ごみ袋をかごの奥に移動させてカラスがまたごみを散らかすのを防いでくれました。町が汚れないようにすぐ動く姿がとてもかっこいいと思いました。私もその人のように気づいたら勇気を出して動けるかっこいい人になりたいと思いました。

中3

▽毎朝学校に行く時に、花だんに水をあげているお婆さんがいます。お婆さんは、となりの家のお花にも水をあげていました。自分の所だけじゃなく他人のために行動しているお婆さんはすごいと思いました。僕も、進んで行動出来るようになりたいと思いました。

中2

▽僕は、夏休みに名古屋へ行きました。その帰りの電車での出来事です。僕は、歩き疲れてクタクタの状態で電車に乗りました。電車は満員だったので、つり革を持って立っていました。すると20代ぐらいのお兄さんが「座っていいよ」と言って席をゆずってくれました。僕は「ありがとうございます」と言って座りました。ゆずってくれたお兄さんのことが今でも忘れられません。お兄さんみたいな気がつく人になりたいと思いました。

中3

▽私は、昨年の春休みに、友だちと名古屋に電車で遊びに行きました。しかし、都会になるにつれて駅のホームで迷ってしまうことがありました。はじめのうちは、みんなでどうにかできていたけど、最後の乗り換えの場所が分からず困っていると、知らないおねえさんが声をかけてくれて、わざわざ道案内までしてくれました。友だちみんなでお礼を言った後、しばらくの間「あのおねえさんかっこよかったね」と盛り上がりました。私も、今後困っている人を見かけたら、あのおねえさんみたいにかっこよくすぐに助けてあげたいです。

中3

▽名古屋駅で、私はカバンの中に入れていたサルのステッカーを落としたことに気づかなかった。名古屋なので多くの人で混み合っている中、自分の荷物に気をとられていて、そのステッカーがもう手元のないことにも気づかず歩いていた。すると「すみません」と背後から声がした。ふり返ると私のステッカーを手を持った女性。「これ落とししましたよ」と声をかけてくれた。一瞬おどろいたけど「ありがとうございます」と一声発し、再び歩いた。ほんの数秒のことだったが、他人の優しさにふれてなんだか嬉しかった。

中3

▽友だちと下校をしている時、鹿が出たことに気づいていなかったけど、車に乗っていた人が「近くに鹿がいるから気をつけて」とわざわざ車を止めて教えてくれました。その人は、とても優しい人だなと思い、とても心がポカポカしました。子どもが危険な目にあわないように動いてくれたんだなと思って、すごくあたたかい気持ちになりました。自分も、だれかが危険な目にあうんじゃないかなと思ったら、すぐ動ける人になりたいと思いました。

中2

▽僕は、よくスーパーに買い物に行きます。おつかいとして行っているだけで、嫌だなと思う日が多いですが、店員さんは、優しく明るく接してくれます。いつも笑顔で周りの人に元気を分けてくれて、その笑顔で元気をもらえます。それがきっかけで買い物も楽しくなりました。これからは、この店員さんみたいにみんなに元気をあたえる人として生活していきたいです。

中2

▽ある日、卓球の試合に行く途中、お昼ごはんを買いにお店に行った時、店員さんに「試合がんばってね」と言われました。知らない人でもちよつとした温かい言葉がけが、いろんな人を元気にさせるんだと思いました。

中2

▽今年の夏、プールに行った日、かき氷をお店で注文しました。しばらくしてかき氷が届いて、スプーンは別のところにあったので、スプーンを取ろうとした時に、かき氷を落としてしまいました。それを見た店員さんがすぐに「大丈夫ですか？」と言い、ぞうきんを渡してくれました。さらに新しいかき氷を作ってくれました。夏のプールで人が多く、店員さんも忙しかったと思うけど、新しいかき氷を作ってくれて優しいなと思いました。僕も、これから相手が失敗しても、優しい行動がとれるようにしたいです。

中3

▽私は、休みの日に気まぐれでゴミ拾いをしています。ゴミを拾うだけでも意外と大変で、拾うゴミをタバコの吸い殻だけに限定しても時間がかかります。でも、ゴミ拾いをしている最中、通りすがりの方々が「頑張ってるね」「すごいね」と明るい声をかけてくださるので、体力は減りませんが、いい気持ちで作業を続けることができます。声をかけてくださる方に感謝しかありません。

中3

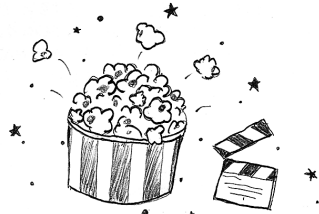


中3



▽初めて訪れた場所で映画を見ようとした時に、映画館がある階が分からずに困ってしまいました。上映時間もせまっていて、通りすがりのお兄さんに声をかけてたずねることにしました。するとお兄さんは「一緒に行きましょうか?」と言って道案内してくれました。さらに、去りぎわに「楽しんできてください!」と言ってくれました。優しく案内してくれた上に相手に気遣いができてすごいと思いました。私もこんな大人になりたいです。

中3



中3

▽僕が少し前に弟と映画を見に行った時の話です。僕と弟の席は少し離れていました。その時に隣に座っていた家族連れの人が僕たちの席が離れているのに気づいて「替わるから座って」と言っって席をゆずってくださいました。僕は、このことに対して家族がいるのに人のことを優先してゆずることはすごいと思っったし、心が温くなりました。映画を見終わっった後でも先に出る人を優先している姿があり、自分もこの人のように周りを見てどんな時でも機転を利かせ臨機応変な行動をとれるようになりたいと思いました。

中2

▽朝、学校へ向かう時、毎回外国人のお兄さんと会います。初めは「こんにちわ」しか話せなかったけど、お兄さんが日本語を覚えて話せるようになりました。僕はとても、心が温くなりました。

中1

▽学校から下校している時、道に迷っているおばあさんがいて、道を聞かれたので詳しく教えしました。「ありがとう」と言われたので、とてもいい気持ちになりました。やっぱりいいことをすると、自分もされた人もいい気持ちになることがわかりました。困っている人がいたら、助けることを心がけて安心して暮らせる町をつくっていききたいです。町や、学校内で困っている人がいたら、優しく声をかけて積極的に助け合っていきたいです。

中2

▽私は、夏休みに友だちと昼食を食べていると、一人の男の子が声をあげて泣いていました。すると、通りかかった一組の家族が男の子に寄りそって、どこから来たのかなどを聞いてあげていました。話をしていくうちに泣き止み、男の子のおばあちゃんが来て笑顔で帰っていきました。私はそれを見て、困っている人がいたら積極的に話しかけて助けたいと思いました。

中3

▽私は、人と会話したり一人で会計に行くのも苦手で、前まで一人で外に出たりする事ができませんでした。ですが、ある日、近くの自動販売機に行って飲み物を買う事が出来ました。この夏休みは中学生最後なので、一人で買い物や会計に行けるようにと言われていました。この日は、一人で留守番をしていて、勇気を出してみようと苦手な事が出来ました。まだこの行動には不安などがたくさんありますが、確実に成長しているということが実感出来てうれしかったです。これから、苦手を克服していきたいです。

中3

▽僕が小学3年生のころ、家族と一緒に愛知県へショッピングに出かけました。まだ小学3年生でしたが、欲しいメダルのおもちゃがあり親とは別行動をしていました。そのおもちゃを見つけた僕は、おこづかいの範囲で買える量を頑張って計算してレジに持っていきましたが、当時、僕は、3年生で、税のことを考えることができず、オーバーしてしまいました。買えないことを理解した僕は「やめます」と言おうとしたところ、後ろにいた知らないお兄さんが「払います」と言い、僕の代わりに足りない分を払ってくれました。払ってもらうことは悪いことと思った僕は、そのことをすぐには両親に言えず結局お礼を言うことができませんでした。昔のことですが、またいつか会うことができたなら「ありがとう」と言いたいです。

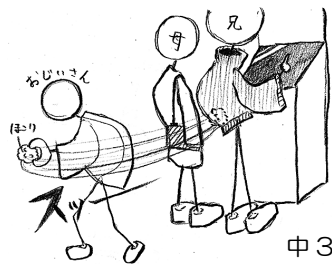
中3

▽私は、習い事で和太鼓をしています。その和太鼓は一ヶ月に二回ほど東海三県の和太鼓クラブが集まってお互いを見合いっこをする発表会があります。私が小学校6年生の時、初めて一人で電車に乗ることになりました。いつも発表会の日には、和太鼓の友だちと一緒に行くけれど、その日は友だちが体調をくずして行くことができなかったのも、人生初一人電車でした。まず切符を買わないといけないけれど初めてで、なんにもわからなくて買えなくて、どんな時間が経ちてきています。すると駅員さんが「目的地はどこ？切符買える？」とたくさん質問してくれたので、切符を買うことができました。電車の外から教えてくれた駅員さんが手をふってくれて、思わず目から涙がこぼれ落ちていました。今でも忘れられません。

中1

▽私は、家族で休みの日に外食に行きました。店内で、母と兄が予約をしていると、一人のおじいさんが私の前を通りすぎていきました。そのおじいさんは、兄の服についていたほりをさりげなく取っていたのです。すぐにおじいさんはいなくなってしまうとお礼を言うことができませんでした。そんな姿がかつこよかったことを覚えています。おじいさんのようなさりげない行動はとても心が温まるものでした。私も、おじいさんのようにさりげない優しさや思いやりをもつて過ごしていきたいです。

中3



▽僕は、趣味で観葉植物を育てています。一昨日、貝殻虫という虫のせいで植物が枯れてしまいました。僕は、深い悲しみに暮れて心がしぼむような気持ちになりました。すると、母が枝豆の種をくれました。僕は、観葉植物の別れを忘れるように枝豆を植えました。枝豆が発芽した日、茎が細く、まだ力もなさそうな子葉がとても愛おしく感じました。そこで僕が学んだのは、大切なものは失ってから気づくということです。いつも当たり前に思っ生きていくとその大切さに気づきません。なので、一つ一つの出会いや物を大切に生きていこうと思いました。

中3



一般編

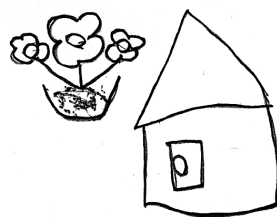




中 1

おうちのおはなのめができました。
どんなおはながさくのかたのしみです。

年 長



▽職場につばめが巢を作っていた。親鳥が何度も行ったり来たりしながら、ひな鳥に餌を運んでいた。その様子を見て、何となく親近感が湧いた。うちの長男が今年から高校生となり、次男も中学生となった。それぞれ学校や習い事で妻と交代しながら車で送り迎えをする毎日。家から駅まで1日6往復する日もある。正直に言って疲れていた。そんな中で見たつばめに、自分と妻の姿が重なって見えたのだろうか。このつばめも大変だろうな、とぼんやり見ていたが、つばめは戻ってきてはすぐに飛び立ち、また餌をくわえて戻ってくる。まるで喜んで餌を運ぶ作業をしているように。そう思ったとたん、送迎中に子どもと会話したり、家族に内緒でおやつを買って帰ったりする時間がとてもいとおしく感じた。それと同時に、いつか子どもたちが巣立っていく日が来るのか、と寂しくなった。まだ次に小学生の長女もいる。もう少し頑張ってみるか。

50代

▽7月のある日、子どもを連れて皮膚科を受診した時のことです。少し咳の症状もあった我が子が気になりながらも無事に診察を終えました。咳をしているのは他の方に迷惑がかかると思い、薬局では薬が出るまで外で待つことにしました。すると、薬を受け取り会計を済ませた方が薬局から出てみえて「外は暑いでしょう。中で待つといいよ」と声をかけてくださいました。私は「ありがとうございます。少し咳が出るので」と返すと「気を遣ってもらいありがとうございます」と言ってくださいました。その言葉を聞き、胸が温かくなるのを感じました。私もそんな風に優しい言葉をかけられる人でありたいと思いました。

40代

▽6歳と4歳の子どもに「ママから大事なお話があります」と切り出すと正座をする二人。「お腹の中に赤ちゃんがいて二人はお兄ちゃんになります」と伝えると、目をまんまるくしてパチクリして驚いた後「おめでどう」と言ってくれた時は、誰からの「おめでどう」よりもうれしくて、あの時の笑顔が忘れられません。日々、大きくなるお腹をそつと優しくなでて「赤ちゃん、待っているからね」と声をかける表情はすっかりお兄さん。体調が悪いと「大丈夫？それ持とうか？肩かしてあげる」と気遣う姿に、まだまだ子どもだと思っていたけれど成長に感動、優しさにほっこり。これからも、ママだけでなく、お友だちや困っている人がいたら気にかけて助けてあげられるお兄ちゃんになってね。

〇代

▽朝、子どもたちが登校・登園する際に、たくさんの人に「おはようございます」と挨拶をします。すると、眠そうな顔をしている人、「朝イヤだな」と目尻の下がった顔をしている人でも挨拶を返してくれます。何日も経つと次は周りの人から挨拶をしてくれるようになりました。私の家の近所は、畑仕事をしている人が多くいます。そのため、挨拶と共に取れたての野菜をわけてください。挨拶を通して自分たちの顔や名前を覚えてもらったり、世間話から昔のことや今のことの情報交換をしたり、いろいろ輪が広がったように思います。「おはよう」の他にも「ありがとう」「ごめんね」などいろいろな挨拶や言葉のやり取りがあります。大人になって改めて挨拶って大切だなと思いました。

30代

▽私の職場の近くに住んでいるおじいちゃん。行き帰りによく見かけていて、挨拶をする仲になりました。行く時は「いつてらっしやい。がんばってね!」「がんばります」と元氣になれます。とっても疲れた日の帰りには「おつかれさん! よおがんばった!」と言ってもらい疲れが飛んでいきました。ある日、おじいちゃんが困った顔をして「車のエンジンが切れんのだ」と言うので、見てみると、「N」に入っていたから切れなかったと気づき、エンジンが切れ「助かったわ」と安心した顔になりました。また、ある日、転職について悩んでいる相談をしたら「あんたなら、どこへ行っても上手くい」と背中を押してくれました。「職場を離れてもまた会えるよ」と言う「近所の人にも伝えておくわ」と笑っていました。歳が違ってもこんなに仲良くなれてうれしいお話です。

30代

▽先日、子どもと一緒にテレビで「はじめてのおつかい」を見ていました。番組が終わるとすぐに子どもが「ぼくも一人で面白い物に行く!」と言いました。普段は「一人だと不安だな」と言っている子なので、その言葉に驚きましたが、同時に成長を感じ、とてもうれしくなりました。買い物をお願いすると、少し緊張しながらも近所のお店に行き無事に頼んだものを買ってきてくれました。本人も誇らしげに帰ってきた。パパにうれしそうに話していました。また、おつかいお願いしますね。

〇代

▽子どもたちが放課後利用している学童クラブの先生方には本当に感謝しありません。年々、利用者が増えて大変だと思えます。子どもたち一人ひとりのことをよく見て、対応してくださっていると感じます。安心して子どもたちを預けることができます。学童の先生方のお手伝いができればと思い、夏休み中に自宅のプールに学童の子どもたちを招待しました。少しの時間でしたが、子どもたちの楽しそうな姿を見ることができて、先生方にも喜んでもらえてよかったです。これから、お互い協力しあいながらできたらなと思います。

○代

▽息子が3歳になったところから毎年キャンプに出掛けることが家族3人の趣味となっています。最初はテント内でおやつを食べているだけの息子も、今では一緒にテントを立てるのを手伝ったり、自然の中で遊びを見つけ楽しんでいきます。便利な物であふれた現代ですが、ちよつと不便な中で工夫したり発見しながら素敵な時間を過ごすのは、ちよつといい夏の体験です。

○代

▽子どもが友だちの家に行くと、そこのご家族の方が子どもにとっても優しくしてくれます。小さいころから地域の人との触れ合いをしていたので、地域の方みんなで子どものことを見てくれて声かけをしてくれます。親としてはとてもありがたいがたくてうれしいです。

○代

▽先日、もうすぐ3歳になる娘に思いがけない言葉をかけられ、とても驚き、そして胸が温かくなる出来事がありました。現在、私は第二子を妊娠しており、妊娠2か月ほどでつわりが始まり、体調が優れない日が続いています。その日も、いつものように家族のためにお昼ご飯を作ろうと台所に立っていました。ところが、ふと娘が私のそばにやってきて「ママは疲れているから、お部屋で休んでね。ご飯はパパと私が作るよ」と言ってくれたのです。まだ小さな子どもだと思っていた娘から、そんな思いやりのある言葉を聞けるとは想像もしていなかったので、驚きと同時に心からの幸せを感じました。その瞬間、娘の成長を強く実感し、母親としてとても誇らしく思いました。きつと娘なりに、私が体調を崩していることを感じ取り、少しでも助けたい思ってくれたのでしょう。母親にとつて、家族からのこうした小さな気遣いは、何より大きな励みになります。たとえ些細な一言であっても、そこに込められた優しさや愛情は何ものにも代えがたい宝物です。これから娘の成長を見守りながら、新しい家族を迎える準備をしていきたいと思います。そして、この小さな出来事を通して、改めて「愛されている」という幸せを深く感じることができました。



▽私は釜戸町に住んでいます。娘が赤ちゃんの時、おばあちゃんに会いにベビーカーに乗せて3回電車で名古屋まで行きました。釜戸駅にはエレベーターがないので、行きは改札入ってすぐホームなので楽ですが、帰りは階段を上り下りしなければなりません。名古屋からの帰り、誰もいないホームに降り立ち、抱っこ紐で子供を抱き、左肩に荷物、右腕にたたんだベビーカーを抱えて階段を登ろうとした時です。釜戸駅で降りたのは私たちだけかと思っていたら、階段の上から若者が降りてきて、ベビーカーを持ってくれたのです。なんと名古屋に出かけた3回とも、利用者の少ない時間帯でしたが、居合わせた若者が助けてくれました。その時、お礼を言いましたが、まだまだ足りないと思いました。「この子たちが助けてくれました！」と紹介したいくらいです。でもできないので、この場を借りて、本当にありがとうございます！ずつと忘れないです。

40代

▽地域のランドセルの少年と挨拶を交わすのが楽しみとなっていた私にとって、中学進学は喜ばしくも少し寂しいものであった。小学校からの帰りの時間と私の習い事の時間の都合がよく、いつも交流していた。どこの子かもわからないまま最後がいつかもわからないまま会うことはなくなつた。それから数年経つたある日、福祉センターでのイベントごとに足を運んだ時のこと。友人と歩いていた私の肩を誰かが叩いたのがわかった。振り向くと、あの少年だった。少し成長していたが、面影がある。こんな再会があるのも、この地域の力でしょう。そしてあの頃のように笑顔で声を掛けてくれたことが、これからの私の原動力になったのは言うまでもない。

70代

▽私には中学生になった息子がいる。「携帯が欲しい」と言い中学校に約束をして持たせた。友だちとのLINEに始まり、自由に使い始めた。同じように中学生になり、携帯を持つ子が増えてきた。LINEのやりとりを少しだけ覗くと微笑ましい内容もあれば、簡単に相手を傷つける言葉を入れてくる子もいる。携帯を持つて3ヶ月が経ち、息子は誕生日を迎えた。息子のメールを見ると、たくさんの友だちが「誕生日おめでとう」とメールをくれた。その中に「生まれてきてくれてありがとう」とメールしてくれた子がいた。略してメールをしてくる子もいる。息子は、おめでとうメールをととても喜んでいた。『おめでとう』と言われてうれしかったから、僕も友だちに『おめでとう』をたくさん言いたい』と言った。優しくまっすぐ育っている息子の姿に嬉しく思った。

40代

▽何年前か忘れてしまったのですが、某ファストフード店で人気アニメのキャラクターとのコラボレーションメニューが出ていました。そのメニューのひとつのチョコシェイクが売り切れていたの、ストロベリーシェイクをオーダーしました。すると、レジ対応の若い男の子が、わざわざそのキャラクターのイラスト入りカップでシェイクを出してくれたのでとてもうれしかったです。私が、そのキャラクターのファンだということがよくわかるなと感心しました。あの時の店員さん、本当にありがとうございました。

50代

▽友人に誘われて、初めて「みずなみにほんごであつまろまい」に学習支援者（日本語パートナー）として参加させていただきました。言葉がよくわからない場所で生活するのは大変だと思います。それでも笑顔で、仕事の合間に学習会に参加され、熱心に日本語の練習をしていらつしやる。その様子が素敵で、こんな方たちが日本に来てくださっていることを嬉しく思いました。外国籍の方との交流を通して、慣れ親しんだ瑞浪での生活が新鮮なものに感じられたのも不思議な心地よさでした。日常で出会わない人と出会い、「伝え合う」ってたくさんの発見があつて楽しい！と再確認した時間でした。日本語パートナーは誰でもできるボランティアなので、たくさんの方に体験していただけるといいなと思いました。

50代

▽私が学校に着くと同時に雨が降り始めた。その雨を避けるかのように寮で暮らす生徒たちが食堂から急いで校舎を目指していた。生徒たちは、校舎に通じる階段をダッシュで上がっていったが、その中の一人がその場に残り、傘を通学用のバッグにかけていた。もちろん雨で濡れぬように。私が「それって、君のバッグ？」と尋ねると「誰のかわかりません」と返してくれた。彼は誰ともわからない他人のバッグが濡れぬよう自分の傘をさしていたのだ。しかも、傘を広げてバッグを覆うように気を配っていた。他人のことを思いやる高校生が、いま私の前にいる。こんな思いを実行できる生徒の将来は、きっと明るいものに違いない。と同時に私に同じことができるだろうか。日々教えられることばかりだ。

70代

▽生徒からの葉書

一通の葉書が届いた。英語を担当し、接点はある。しかし、葉書をもらうには思いがけない生徒であつた。彼は授業に関心を示すわけでもなく、予習はなし、まして手を挙げて質問など考えられないタイプの生徒だ。目立つこともなく、日頃から疲れた様子だつた。そんな生徒からの葉書に、驚いたというよりは「何だろう」という気持ちが走つた。一体、何が言いたいのだろう。手紙は以下のようなつた。(前略)

「先日、掃除の終わりに職員室に寄つた際、先生から勉強や努力することについて教えていただきました。僕は、高校生になり無気力な状態が続いていましたが、先生のお陰で努力することの大切さを再確認することができました」(後略)

生徒たちへの声掛けは日頃から心掛けています。しかし、私は声を掛けやすい生徒たちに声を掛け、馴染みの生徒が対象だつたのではないだろうか。何か偏つていて、独り善がりのものであつたのではないか。私の声掛けは、至らぬものであつたことをこの葉書から知つた。私には「今日のテーマ」という日々の目標を設定しているが、その目標も独り善がりになつて思ひがしてきた。生徒に声を掛けるにしてもアンテナを高く張り、できるだけ広く声掛けしなくてはいけない。忘れられているような生徒に気持ちを寄せていく。大切なのは、声を掛けられない生徒たちへの思いを寄せることではないだろうか。偏りのない心掛け。難しいことだが、そんな課題を教えてください。

▽日曜日の夕方、大相撲の千秋楽の最後の三番を見ながら、麦酒を開けた。そんな時に突然固定電話が鳴った。第一声は「助けてください。お願いします」と切羽詰まった声だった。午前中で母親のところに滞在していたが、夕方に何度も電話をかけて返事がまったくなく民生委員の私に家まで様子を見てほしいとの依頼だった。すぐに出勤して玄関の呼び鈴を鳴らしたが返事はなく、玄関の戸を強く叩いても反応はなかった。帰宅して様子を報告したが、もう一度見てほしいと懇願された。合鍵の場所まで教えられたものの、辺りは真っ暗で、アルコールも入っていたので、区長さんと警察OBの方に同行してもらうことにした。もう一度、予備鈴を鳴らし、玄関を叩いたが反応なし。最終手段として合鍵を探し出し、息をのみながら三人で独居宅に入った。すると、奥にある部屋からテレビの音らしきものが音量も高めに聞こえてきた。97歳のおばあちゃんは何事もなかったように座っていた。お元氣な姿を確認できて胸をなでおろした。男三人が突然家に入ってきたことを説明して、心配されていた娘さんへの電話をお願いした。日頃、民生委員の仕事をさぼり気味なので、こんな時に少しでもお役に立ててよかったが、のんびりと過ごすとした日は、そうとはならなかった。しかし、平穩であることの有難味がわかる日となった。何事もなく、穏やかな毎日が大切だと胸に刻んだ。

70代

▽我が家に観葉植物のスパティフィラムが来て30数年が過ぎた。その間、枯れることもなく毎年花を咲かしてくれる。スパティフィラムは、とても良い香りがするが、微香なので意外と知る人は少ないのが残念だ。我が家のスパティフィラムの元の持ち主は、H先生といって30年以上前に教鞭をとっていた方だ。4・5年は在職されていたが、退職された時に当時の英語科の研究室に置いていかれた。その後、私が引き取って現在に至っている。初夏に植え替える必要があり、寒さに弱いので、冬は加温し、日光に当てている。今年は寒さに当ててしまった感があり、心配していた。もちろん30数年前の元の株は姿かたちもなく、今あるのは更新したものだ。普通は枯らしてしまうので、30数年同じスパティフィラムを育てるのは珍しいのではないかと思っている。H先生は、そろそろ定年退職の歳、会うことは難しいと思うが、もし会うことがあれば、先生から引き継いだスパティフィラムをお返しできればと思う。心配をよそに今年もスパティフィラムの白い可憐な花が咲きだした。

70代

▽道端で財布を落としたお年寄りに、通りかかった私がたまたま気が付いたので声を掛けた。「落とししましたよ。」と拾い差し出すと、お年寄りは目を潤ませて感謝された。「大丈夫ですか？」と声を掛け、家まで送ることにした。途中お年寄りは昔話をして下さり、一緒に笑い合った。別れ際、お年寄りは「あなたのお陰で今日が素敵な日になった」と握手された。私にとっても何だか素敵なひと時になった。

70代

▽令和元年から近くのデイサービスでお世話になり、そろそろ6年になります。難病で手足の力がなくなり、どこも行けない毎日。でも今は、自分の一日はなんとかできる幸せな暮らしです。そして、週一回だけのこの優しい職員の方たちに助けていただき、小物作り、ゲーム、おしゃべりと本当に楽しくうれしい時間。そして、それ以上におやつの時間に感動します。毎週、職員の方の手作りのおかしが登場し、シュークリーム、たいやき、プリン、いろいろななど、お店で買うより作り手さんの心がいっぱいプラスされ本当に美味しい。「美味しいね。上手だね。」「どうやって作ったの?」なんておしゃべりしながらいただきます。ありがとうございます。身障者では、利用できないと思います「大丈夫」と知りました。もっと早くからおじやますることにすればよかったと後悔しています。週一回だけじゃ淋しいけれど、しかたないですね。

80代

▽デイサービスに来て一ヶ月が経った。最初はあまり気が進まなかった私だが、あつという間に、デイサービスは良いところだと思えるようになった。それは、ほんの些細なことが喜びに変わることを知ったからだ。髪を切ったり、いつもと違う洋服を着てデイサービスに行くと、皆が気付けてくれて褒めてくれる。私という人間を認めてくれるような感じが、生活を今までとは比べ物にならないぐらい楽しくしてくれる。まだまだ長生きしたくなってきた。

90代

▽私は、もともと口下手な方だ。加えて出無精と来たものだから、なかなか人とコミュニケーションが取れない。通っているデイサービスでも悪い癖が出る。行事の七夕の短冊にも、何となく「元気でいられますように」と綴った。しかし、帰宅してから少しばかり後悔し始めた。いつもお世話になっている職員の方々への感謝の一つでも綴れば良かった。しかし、それが出来ないのが自分でもある。挙句散々迷ったが、次のデイサービスの時に勇気を出して短冊の追記を志願した。「いつもお世話になっている職員の皆さん、ありがとうございます」と綴らせてもらおうと、職員の方々が喜んでくれた。いつも自分から切り捨てていたほんの一言が、こんなにも人に影響を与えることを知った。月並みではあるが、これからは、もっと良い人付き合い方が出来る気がしているし、新しい自分にも出会える気もする。

80代

▽私を通っている市内のデイサービスでは、自由に散歩が出来る場所がある。以前は外に出ることが好きだったが、最近はスタッフが声を掛けてくれるものの体調の加減からなかなか外に行けずにいた。そんな時、ふいに他の男性の利用者の方が近付いてきた。何かと思ったら、その手には野花。「外に咲いていたから」と私に見せに来てくれた。普段そんなに話す機会もない私の外への憧れを感じていたのだろうか。それはわからないけれど、何とも言えない感謝と共に、その花が滲んで見えた。

80代

▽私は、かねてより絵描きを趣味にしている。最近ではそれもなかなか難しくなり、今では通いの福祉施設で塗り絵をやるのが関の山だ。しかし、これがなかなか面白い。何でも、スタッフが独自に絵を描いてくれているのだそうで、とてもやりがいがある。それに、いつも綺麗に色鉛筆が削ってあって気持ちが良い。ある時、他の利用者の方が鉛筆を削ってくれていた。聞けば、いつも進んで色鉛筆を削ってくれていたのだそう。「そうとは知らず、好き放題使ってますまんね」というと、「あなたの絵を楽しむにしているから、これは私が出来る協力。気にしないで下さいね」と言われた。それからはより一層、塗り絵に身が入り、楽しみも増えた。今度、久しぶりにデイサービスで絵を描くことに挑戦しようかと、密かに思っている。

80代

▽こんな不自由な体になって17年。なかなか出かけて「ちょっとしたいいこと」にぶつかることもない私。そうだ、病院はちよくちよく行く。先日は、歯医者さんと眼科が一緒の日。まず、歯医者さんは、長いことお世話になつていいる先生。私の病気のこともよく知っていてくださって、診察前「元気だったかね」と声をかけてくださる。次に眼科。ベットで横になり治療を受けて起き上がるうとすると、いつも後ろから肩をかけて助けてくださる。長い待ち時間の疲れも忘れちゃう。またこの一年、かかり始めた皮膚科の先生、私の病気などわからないかもしれないが、杖をついて診察室に入る姿を優しい目で迎えてくださる。この三人の個人病院の先生方は、私の病気以上に私の心の中を元気にしてくださる優しくすばらしい先生方です。ありがとうございます。

80代

▽物事にはルールが存在する。ルールがあることでそれが規律となり、円滑に回ることが多いのだが、それを重んじる人もいれば軽んじる人もいる、というのが世の常だろう。私のいるデイサービスでも、金銭は持参しないことが一つのルールになっている。しかし、隣の席の方が、こっそりと財布を持ってきているのを目にしまった。職員の方に言うべきなのだろうが、何だか勇気が出ない。そのモヤモヤで胸の重苦しさを感じていた。そんな時、別の方が「ここは財布を持ってきたてはいけないよ」と声掛けをされた。それを聞くと、財布を持って来ていた方も「そうやったか。それはすまんかった」と和やかな雰囲気。誰かに何かを注意することは本当に難しいこと。そして、指摘されたことを素直に受け入れるのもまた、なかなか難しいこと。この人たちから学ぶことは、まだまだ多そうだ。

70代

▽いつも買い物に行く為に足を運ぶバス停。バスの待ち時間、思い出すのはいつも同じこと。数年前、一人のおばあさんが毎朝このバス停に来ていた。乗車するわけではない。バスの運転手の方も、この人は乗車しない人だとわかっているような感じだった。最初は不思議に思っていたが、ある時バスの乗客の方の会話が聞こえてきたので理由が分かった。あのおばあさんは、毎日のバスが安全に運行し、バスの乗客全員の今日が元気に一日を過ごせることを祈っていたのだそう。それが程なくして、そのおばあさんがバス停に現れることはなくなった。もしかしたら、平和を願う神様だったのかもしれない。

70代

▽畑が好きなのは、いつも野菜を育てるのが唯一の楽しみだ。その楽しみも年を取るにつれて、腰が痛くなったり、あちこちに不自由が出てきた。それに加えて近年は、草が良く伸びてしまうので草刈りをしなければならない。これがまた重労働で、それを理由に野菜を作るのを引退しようかと悩んでいた。そんな時、近所の方が「最近あんまり畑に出てこないが大丈夫ですか？」と心配してくれた。悩んでいることを打ち明けると「草刈りは私がやりますから、楽しいと思えることを続けて下さいよ」と言ってくれた。甘えるのもどうかと迷ったが、せっかくのご厚意を力に変えて畑を続けることにした。近所の方には、採れたての野菜でお礼。今まで通り、また毎日を楽しく過ごさせてもらえることに感謝している。

80代

▽まだ小さな子が遊んでいるな、と思い見ていると片方が家の前の道路で転んだ。心配して駆け寄ると、膝が擦り剥けていたので、家から消毒を持ってきて絆創膏を貼った。「ありがとう」と言うとその子たちは走って帰って行った。その日の晩、玄関のチャイムが鳴ったので出ると、そこにはその子たちと母親の姿。どうやら兄弟だったようで、わざわざお礼に来てくれた。絆創膏一個が、小さな子からの感謝に変わるなんて、とても感動した。

80代

▽新聞を取りに外へ出ると、近所の猫がうちの前で日向ぼっこ。声を掛けたら、しっぽだけ返事してくれた。多分、もう友だち。

70代

▽服装に疎い私に、娘がくれたのは洋服。今日は父の日だからと笑顔で渡された。恥ずかしいやら嬉しいやらで、よくわからんがとにかく着るといので着てみた。妻と娘に促され、着てみたは良いもののなんだか派手な気がして恥ずかしい。その日は自分の部屋に戻るとすぐに服を脱いで寝てしまった。「おじいちゃん、いつもその服着てるね」と孫たちに言われるまで本当に気付かなかったが、あれから20年経った今でも、あの日の服を着ている私。いつしか一張羅のようにこの服を愛用している私を見て、妻や娘はどう思うのだろうか。それもまたわからんが、この服が年を取り、髪も恥ずかしさも薄れて来た私の原動力になっていることは間違いない。

70代

▽ある新聞の「あなたが作る一行詩」に月一回のペースで頭のサビが少しでも薄らげばと投稿をはじめて3年目になります。たまに掲載されると、それが励みとなり続けることができます。また、友より掲載を自分のことのように喜んで、その都度お手紙をいただき、それも励みのひとつになってまた書くという気になります。老人の刺激の少ない日々は、ちよつとしたことでも心に大きな波紋となり動かされます。いつまで続けることができるかわかりませんが、手足の動く限り頑張つて続けたいと思います。

90代



▽ある夏の日。親が仕事から帰るまで我が家で預かっている孫が言いました。「ばあばの家の近くでうれしいな」って。「えっそれホント？ばあばもううれしいよ」と答えました。言葉つてすごいな。私の心はホカホカになりました。思いやりのあるやさしい心を孫に教えました。いつでも遊びに来てね！

70代

▽昔、旅館で働いていた時のこと。秋のある日、近くの山にキノコを見に行くと、見事に沢山出ていた。これだけ出ていればと思い、旅館に持って帰ったところ奥様から「私に分けてくれ」と言われて譲り渡した。すると、その日の夕食にキノコ入りの味噌飯を作って旅館で働く皆に振舞って下さった。皆が喜んで食べている様子に、私はとても嬉しく思ったのを覚えている。

80代

▽同級生でのマレットゴルフでホールインワンが入ったあの日のことが忘れられない。それまでの私は、何をやってもそこそこで、あまり得意なこともなかった。当然、目立つような存在でもなかったように自分では思う。そんなある日、同級生連中からマレットゴルフに誘われた。それ程気も乗らなかったが付き合いというのもあり参加した。コースを回るうち、私の打った球が先まで転がり地面から消えた。まさかのホールインワン。これには同級生たちも驚き、感嘆の声を上げた。それから私は少し自分に自信が持てるようになり、「何でもやってみよう、やってみれば上手いくかもしれない」と思えるようになった。

90代

▽娘と孫と買い物に出かけた時、電車で孫が泣き出して周りが少しざわついた。まだ乳飲み子、初めての電車に驚いたのかと焦っていると、若いサラリーマンがそつとポケットから折り紙を取り出し、鳥を折って見せた。孫は泣き止み、娘は「ありがとうございます」と小さく頭を下げた。サラリーマンの方は「うちの子も少し前、こうだったんです」と照れくさそうに笑う。次の駅で降りる彼の背中に、車内の空気が優しくなっていた。

70代

▽昔、毎朝ゴミを拾っているおじいさんがいた。「いつもゴミ拾いをされていますね」と声を掛けると、「昔ここで大事な人と待ち合わせしたんだ」と笑顔で言われた。今、私が散歩がてらゴミ拾いをしているコースは、そんなおじいさんがいた思い出の場所だ。

70代

▽忘れられないのは電車で会社に通っていた頃。電車で席を譲ったら、おばあさんが笑って言った。「あなたが座っていた方が、景色が綺麗に見えるわよ」思わず一緒に笑って、その後、少し心が温かくなった。

80代

▽自動販売機でお茶を買おうと思っていたら、小銭を落としてしまった。たまたま近くを通りかかった野球少年が拾ってくれたので、お礼にと思いジュースを買ってあげた。驚きながらも喜んでくれた。あの汗まみれの顔に感謝と喜びを感じた瞬間だった。

70代

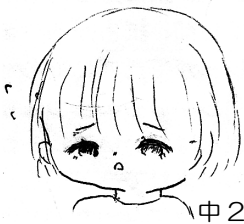
▽私が若い頃、エンジンではなく後ろに積んだ薪を燃やして走る『薪のバス』というのがあった。運転手の方は、もう70歳を超えていたが、毎朝欠かさずバスの炉に火を入れていた。

「火は人の心と同じだ。ちゃんと育ててやらんと、すぐに消えちまう」

そう言いながら慣れた手つきで薪をくべる。バスの中は、ほんのり木の香りがして、窓の外には霜の降りた田畑が流れていく。私たちはその匂いを嗅ぐと「あ、今日も学校行けるね」と笑ったものだ。けれど、時代が進み町にも新しい電気バスがやってきた。薪バスは「古い」「煙が出る」と言われ、引退が決まった。最後の運行の日、運転手さんはいつもより早く起きて「今日は町じゆうをあつためる日にするんだ」と丁寧な薪を割っていたそう。出発の時間。乗り込んだのは、昔このバスで通学していた人たちだった。私を含め、もう大人になり、町を出た人も、みんな戻って来ていた。バスが動き出すと、ゴトゴトという音と一緒に、炉の中で薪がパチパチと鳴った。

その音は、まるで通学の時の懐かしい笑い声のようだった。丘の上に差し掛かる頃、バックミラー越しに、涙をこらえている運転手さんの顔が見えた。最後の薪が燃え尽きる。夕陽の中、バスは静かに止まった。炉の奥に、まだ赤い炭が小さく灯っていた。それはまるでこの町に残る「ぬくもり」そのものだった。

90代



中2

▽「じいちゃん、またゴルフに行っているよ」

家族皆で母の実家に遊びに行くと、祖母がそういうのが最近の恒例になっていた。せっかく遙々会いに来たのに、またゴルフ。最初は少し残念な気持ちにもなった。しかし、少しずつ嬉しそうな祖母と母の表情に気が付いた。朝から晩まで、手を抜くことなく真面目に働き続けて来た祖父。決して裕福とは言えない中で、母は厳しく育てられたと言うが、私たち孫はいつも笑顔しか見たことがない。趣味や楽しみ、その全てに捉われず、一家の大黒柱としての責任を果たしてきた。そんな祖父がようやくゴルフを始めたのは、およそ80歳まで続けた仕事を辞めてからだった。青春というには、あまりにも遅すぎる初めての娯楽は、祖父を存分に楽しませた。自宅の工場にゴルフゾーンを自作し、打ちっぱなしにも足繫く通った。作業着を、お気に入りの青のポロシャツに替えた祖父は、その甲斐あって大会では何度も優秀な成績を収めるに至った。90歳を過ぎても変わらないゴルフ生活を送る姿は、もはや超人の域。そんな祖父の笑顔や、自由な時間を過ごす姿を見ているのが、祖母や母にとってはきつと格別に嬉しかったのだろう。現代は楽しいことや便利なもので溢れていて、日常の中にある有難さにも気が付かないで過ごしている人も多いと思う。きつと私もその一人。だけど、こうして祖父のことを考える度に、本当に大切なことや恵まれていることに気付かせてもらえる気がしている。

「じいちゃん、またゴルフに行っているよ」

いつしか私は、嬉しそうにそう話す祖母や母の会話を聞くのも楽しみになっていた。

30代

感想

▽この本を手にした時、とてもいい本だなと思いました。最近の子どもたちの心の優しさが伝わってきました。13・14と読みました。心がすごく温まりました。



70代

ちよっといひ話 15

令和 8 年 2 月発行

瑞浪市・瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議
(瑞浪市 みずなみ未来部 市民協働課)

〒 509-6195 瑞浪市上平町 1 - 1
TEL 0572-68-9756 FAX 0572-68-2132
<https://www.city.mizunami.lg.jp>

この冊子は岐阜県からの助成を受けています。